

# 中間報告書

## 【2017年3月～12月】

グラスルーツからの日米関係強化に関する  
政府タスクフォース  
(各地各様のアプローチ)

平成29年12月8日  
外務省



## ①シャーロット盆踊り大会(アトランタ総領事館)

- 実施時期 2017年8月5日
- 実施場所 ノースカロライナ州シャーロット市
- 関係機関 シャーロット日本人会
- 訴求対象 シャーロット市及び近隣在住市民
- 開催規模 約5千名
- 概要・効果



シャーロット日本人会が主催する盆踊り大会に、総領事館広報文化ブースを設置し、浮世絵展示を実施したほか、2017年カケハシ・プロジェクトで訪日した地元の高校生が訪日経験を展示発表。

盆踊り大会に足を運んだシャーロット市民等に広く日本文化及び日米交流の実例を紹介できたことに加え、訪日した高校生が日米交流促進活動を行う場を提供することができた。



## ②グリーンビル盆踊り大会(アトランタ総領事館)

- 実施時期 2017年8月19日
- 実施場所 サウスカロライナ州グリーンビル市
- 関係機関 サウスカロライナ日米協会
- 訴求対象 グリーンビル市及び近隣住民
- 開催規模 約900名
- 概要・効果



サウスカロライナ日米協会が主催する盆踊り大会に、総領事館広報文化ブースを設置し、浮世絵展示を実施。

盆踊り大会に足を運んだグリーンビル市民等に広く日本文化を紹介することができた。

### ③ジョージア州地元要人対象イベント「Experience Japan」(アトランタ総領事館)

■実施時期 2017年9月16日

■実施場所 ジョージア州アトランタ郊外グウィネット郡(ジャパンフェスト会場内)

■関係機関 ジョージア日米協会、ジョージア日本人商工会

■訴求対象 ジョージア州議会議員等地元要人とその家族

■開催規模 約50名

■概要・効果

#### 【概要】

米国南東部最大級の日本祭りであるJapanFestの機会を活用し、地元要人を対象に、ジョージア州進出日本企業の存在・活動を理解してもらう企業展示ツアー及び日本企業代表等との懇談、和食・日本酒といった日本の食文化、文楽等伝統芸能に触れる機会を提供するイベントを実施。

#### 【効果】

通常ではJapanFestに足を運ばない議員・自治体首長等の参加が得られ、日本企業の活躍、和食・日本酒の魅力、日本文化の魅力を紹介することができた。



#### ④南東部自動車会議における日米(南東部)自動車部品産業商談会(アトランタ総領事館)

■実施時期 2017年10月4～6日(3日間)

■実施場所 アラバマ州バーミングハム市  
(バーミングハム・ジェファーソン・コンベンション・コンプレックス)

■関係機関 アラバマ自動車製造業協会、ジェトロ・アトランタ事務所

■訴求対象 アラバマ州を中心とする南東部の自動車産業関係者

■開催規模 約1千名

#### ■概要・効果

##### 【概要】

本年で第10回を迎える南部自動車会議(アラバマ州、ミシシッピ州、テネシー州の各自動車製造業協会が持ち回り開催。ジョージア州及びサウスカロライナ州も参加。南部の自動車関連企業(OEM及びサプライヤー等)が、新技術、生産戦略、リーダーシップ等について議論しネットワークを構築するイベント)で、ジェトロ・アトランタ事務所が、南部自動車会議の中で、日本企業の展示エリアを設置し、並行して個別企業間の商談会をアレンジ。

##### 【効果】

自動車産業関係者に南東部における日本のプレゼンスを改めて印象付けるとともに、会議に出席したケイ・アイヴィー・アラバマ州知事に対し、在アトランタ総領事とジェトロ・アトランタ事務所所長から日本企業展示エリアと参加日本企業について説明し、アラバマ経済への日本企業の貢献をインプット。



## ⑤ジョージア州アトランタ圏における運動会及びバーベキューの実施(アトランタ総領事館)

■実施時期 2017年10月28日

■実施場所 ジョージア州アトランタ市(ブランドン・ホール高校)  
(雨天のためグラウンドではなく体育館で実施)

■関係機関 ジョージア日米協会主催

■訴求対象 アトランタ圏在住の日本に関心を有する一般市民

■開催規模 80名

■概要・効果

### 【概要】

ジョージア日米協会が開催する日米交流イベントの1つで、地元私立高校の協力(グラウンド又は体育館の提供)を得て実施。日本の運動会の定番競技である玉入れ、綱引き他、けん玉リレー、酔っ払いリレー、羽根つきリレーといった怪我を誘発しづらい競技を中心に紅白のチーム対抗戦が実施され、勝利チームには日米協会から記念品が贈呈された。その後、バーベキューランチが提供された。当館からは、総領事、館員及び館員家族が参加し、競技参加及び運営補助の協力を実施。

### 【効果】

子供連れの家族(日本人駐在員、米国人、国際結婚)、JETプログラム参加者及びその家族、アジア太平洋子ども会議に参加したジョージア州の児童等が、日本文化の一側面である運動会を体験することで、特に若年層(10歳以下の米国人乃至国際結婚家庭の子女15人)の日本への興味を高め、また、JETプログラム参加者の米国における日本関連活動への継続に弾みを付けた。



## ⑥ジョージア州地元要人対象イベント「Experience Japan」(アトランタ総領事館)

■実施時期 2017年11月1日

■実施場所 ジョージア州アトランタ市

■関係機関 カーター・センター

■訴求対象 国際保健・公衆衛生・医療分野の専門家・学生

■開催規模 約70名

■概要・効果

### 【概要】

平和構築、保健、人権分野で活動する国際NGOカーター・センターと共催で、「Japan's Role in Global Health」と題するセミナーを実施。

### 【効果】

通常の総領事館イベントでは接触がほとんど見込まれない国際保健・公衆衛生・医療分野の専門家・学生等がセミナーに出席。

「日本×国際保健×アトランタ」を切り口に新たな日本への関心層を開拓することができた。



## ⑦シンゼン・ユース・プログラム壮行会(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年7月21日
- 実施場所 サンフランシスコ総領事公邸
- 関係機関 北加日本文化コミュニティセンター(JCCCNC)
- 訴求対象 シンゼン・ユース・プログラム参加関係者
- 開催規模 約80名
- 概要・効果

シンゼン・ユース・プログラムは、日本の若者との親善交流を行うことを目的に、当地の日系人青年及びその家族が訪日するプロジェクトで、1995年にJCCCNCが当館と協力して開始されたもの。今年8年振りに18名の日系人青年及びその家族ら合計90名が参加して同プログラムが行われる機会に総領事公邸にて壮行会を開催し、同プログラムの更なる発展に向けた貢献を行った。



## ⑧J-POPアイドル・カラオケ・コンテスト(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年9月10日
- 実施場所 サンフランシスコ市内フォート・メイソン・センター
- 関係機関 Superfrog Project
- 訴求対象 日本語に関心がある若者
- 開催規模 約1千名
- 概要・効果

J-POPサミット・フェスティバル2017のメイン行事の1つとして、同フェスティバル主催者と共催で、日本語に関心がある若者を対象に日本語普及を目的とした「J-POPアイドル・カラオケ・コンテスト」を開催。優勝チームには当館広報文化センター長より賞状を授与。当地における日本のポップカルチャーの普及に大きく貢献した。



## ⑨ Design Thinking × Japan ～ Re-imagine Japan tourism ～ (サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年9月12日～14日(3日間)
- 実施場所 ベイエリア(SAPオフィス内)
- 関係機関 SAP
- 訴求対象 潜在的訪日観光客
- 開催規模 約220名
- 概要・効果



37カ国からのSAPアカデミー研修生(160名)と観光関連産業を始めとする日本企業参加者(約60名)が「デザイン思考」を用いて、訪日観光客の継続的な訪日の仕組みを検討するワークショップを開催。今後、本ワークショップでのアイデアの下、訪日観光客が増加することにより、日米の人的交流の強化がされることが期待される。

## ⑩ 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年10月26日
- 実施場所 市内ワールド・アフェアーズ・カウンシル
- 関係機関 官邸国際広報室  
ワールド・アフェアーズ・カウンシル(WAC)
- 訴求対象 当地有識者等
- 開催規模 約50名
- 概要・効果



「歩こうアメリカ、語ろうニッポン」事業として当地を訪問した大島正太郎元駐韓大使の講演会をWACと共催で実施。米国・イスラエル公共問題委員会顧問、在サンフランシスコ韓国総領事館館員、当地の大学教授等の有識者を含む参加者に対し、東アジアの安全保障、北朝鮮情勢、日本経済の情勢及びグローバル経済における役割等について発信することができた。

## ⑪桜メント・プロジェクト(桜並木植樹計画)の桜植樹式(サンフランシスコ総領事館)

■実施時期 2017年10月28日

■実施場所 サクラメント市内サウスサイド・パーク

■関係機関 サクラメント植樹基金・桜メント委員会

■訴求対象 サクラメント市民

■開催規模 約80名

### ■概要・効果

州都サクラメント市内のロバート・マツイパークに約200本からなる桜並木を形成し、将来的に毎年桜が咲く時期に桜祭りを開催することを目指すプロジェクト。

今回は、マツイ連邦下院議員や州議会議員、市民ら約80名が植樹式に参加し、桜28本を植樹した。



## ⑫宇山経済局審議官による講演会(サンフランシスコ総領事館)

- 実施時期 2017年11月13日
- 実施場所 サンフランシスコ州立大学
- 関係機関 サンフランシスコ州立大学
- 訴求対象 サンフランシスコ州立大学教員・学生
- 開催規模 約40名
- 概要・効果



米国や欧州で保護主義の動きが強まる中、TPP、日EU・EPA、RCEPといったメガFTAの交渉への参加を通じて自由貿易のルール作りを前進させていくとする我が国の経済外交の戦略を紹介するとともに、カリフォルニア州による多国間貿易システム促進に対する協力への期待を表明。当地の代表的大学の教員・学生に我が国の経済外交につき発信することができた。

## ⑬シアトル桜祭・日本文化祭(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年4月21日～23日(3日間)
- 実施場所 シアトル市シアトルセンター(1965年万博跡地)
- 関係機関 シアトル桜祭・日本文化祭実行委員会、シアトル市
- 訴求対象 ワシントン州郡長、州議員、地域コミュニティ全般
- 開催規模 約2万8千人
- 概要・効果



文化交流使(藤間蘭黄氏)の発信機会を形成。

書道・茶道・華道・武道等のデモンストレーション・展示、当地日系人及び日本人音楽家等による和太鼓・日本舞踊等の異文化体験と相互理解を通じて日米友好関係促進に寄与。



## ⑭八戸市・田子町・おいらせ町産品PRレセプション(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年5月31日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 青森県八戸市・田子町・おいらせ町
- 訴求対象 ワシントン州政府、有識者、当地メディア
- 開催規模 90名
- 概要・効果

八戸産水産品と日本酒等のPRイベントを開催。  
フェデラルウェイ市議会議員の出席も得つつ、来年(2018年)に八戸市とフェデラルウェイ市とで姉妹都市提携25周年を迎える契機に、両市の関係をより深めたいとの挨拶。



## ⑮Japan Fair 2017(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年7月8日～9日(2日間)
- 実施場所 ベルビュー市メイデンバウワーセンター
- 関係機関 ベルビュー市、ジャパンフェア2017実行委員会他
- 訴求対象 ワシントン州副知事、州議員、地域コミュニティ全般
- 開催規模 約2万人
- 概要・効果

開会レセプションでは、ワシントン州副知事に加え、ベルビュー市長ほか当地政治関係者との関係を構築。

シアトル日本商工会と連携し、当地進出日系企業がブース展示。日本文化関連団体による各種日本文化の発信。



## ⑩第31期JETプログラム歓迎レセプション(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年7月21日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 JETAA(JET同窓会)、日米協会
- 訴求対象 第31期JETプログラム参加者、県人会コミュニティ、教育関係者
- 開催規模 68名

### ■概要・効果

新規JETプログラム参加者を対象に、プログラムの概要、日本での生活等に関する講義の実施。

新規JETプログラム参加者間の連携の強化及びJETAA会員および関係団体とのネットワークの構築。

当地教育関係者やメディア等を通じて同プログラムに関する広報活動の実施。



## ⑪シアトルー神戸姉妹都市締結60周年関連行事(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年7月27日
  - 実施場所 シアトル総領事館公邸
  - 関係機関 兵庫県神戸市、シアトル姉妹都市協会他
  - 訴求対象 ワシントン州政府、有識者、当地メディア
  - 開催規模 50名(公邸行事のみ)ほか多数
- ### ■概要・効果

シアトル市長等の参加を得つつ、関連行事の初日に公邸にてシアトル市-神戸市の姉妹提携60周年記念レセプションを開催。

神戸市主催ビジネスセミナーやシアトル市港湾局による祝賀会、マリナーズ試合での始球式、シアトル市内で各国コミュニティ団体とともにパレード参加(20万人以上が見物し地元TVが生中継)など、両市の活発・緊密な姉妹関係を当地に印象付けた。



## ⑱福岡県人会110周年記念関連行事(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年8月17日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 福岡県、ワシントン州福岡県人会
- 訴求対象 ワシントン州政府、有識者、姉妹都市関係者
- 開催規模 50名(公邸行事のみ)
- 概要・効果

福岡県副知事ほかの県人会周年行事の機会を捉え、公邸にて当地コミュニティ関係者を招き、歓迎レセプションを開催。

福岡県人会110周年行事が開催されたほか、2019年に提携60周年を迎える北九州市-タコマ市の姉妹都市関係者などとの新たなネットワークの構築を支援し、姉妹関係を当地に印象付けた。



## ⑲JUMP: JAPAN US MILITARY PROGRAM(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年9月10日
- 実施場所 二世退役軍人会(NVC)メモリアル・ホール
- 関係機関 笹川USA、二世退役軍人会、ワシントン州日米協会(JASSW)
- 訴求対象 日系コミュニティ、米軍当局者、有識者
- 開催規模 320名
- 概要・効果

笹川USAの資金協力の下、NVC(シアトル周辺に居住する元日系兵士たちの親睦会)とJASSWにより、我が国陸上自衛隊と米陸軍第1軍団を対象とした歓迎会を実施し、併せてコミュニティ関係者を招待して交流会を実施。

地域コミュニティと日米防衛当局者との交流を促進すると共に日米同盟の重要性を発信。



## ⑳NVCLレセプション(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年9月30日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 二世退役軍人会(NVC)
- 訴求対象 二世退役軍人会のメンバー、日系コミュニティ
- 開催規模 70名
- 概要・効果

NVCメンバー、その家族、日系コミュニティ関係者を招待。なお、総領事公邸にNVCの一般会員全員を招待したのは今回が初めて。第二次大戦時の経緯等もあり、長年にわたり難しい関係にあったNVCと我が国との和解を促進。



## ㉑AIイノベーションミートアップ行事(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年10月4日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 ワシントン州商務局、シアトル大都市圏IT・AI企業
- 訴求対象 ワシントン州政府、有識者、IT関係者、メディア
- 開催規模 110名
- 概要・効果

日本からAI関連のミッション団が当地を出張した機会を捉え、交流行事を開催。2016年6月に締結された日本とワシントン州間の協力覚書に基づき、州商務局からも支援を受けており、同覚書の成果の一つとして挙げられるところ、次回会合も予定。

当地日系新聞(日・英)及びビジネス系メディアで幅広く取り上げられた。



## ②②国際農業者交流協会米国派遣農業者研修修了式(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年10月10日
- 実施場所 シアトル総領事館公邸
- 関係機関 JAEC(公益社団法人国際農業者交流協会)、  
BBCC(ビックバンドコミュニティカレッジ)
- 訴求対象 ワシントン州議員、州農務局、ホスト農家、地域コミュニティ
- 開催規模 100名
- 概要・効果

本年度で52年目を迎えた米国各地の農業研修を実施しているJAEC、当州の受入れ大学であるコミュニティカレッジと連携し、18ヶ月にわたる米国内各地での研修の修了式を実施。

研修生の農業技術・知識の研修に加えて、受入れ大学、ホスト農家等関係者全員が異文化体験と相互理解を通じて日米友好関係促進に寄与。



## ②③熊本県-モンタナ州姉妹都市提携35周年関連行事(シアトル総領事館)

- 実施時期 2017年11月12日～16日(5日間)
- 実施場所 モンタナ州の3都市
- 関係機関 熊本県、モンタナ州政府
- 訴求対象 モンタナ州知事、州議員、地域コミュニティ全般
- 開催規模 35名(当館主催交流行事)他
- 概要・効果

蒲島熊本県知事一行が、姉妹州/県関係35周年を記念シミズーラ市、ヘレナ市(州都)及びボーズマン市の3都市を訪問し、熊本地震からの復旧状況等について情報発信。

州政府と連携し、当館主催交流行事を開催したほか、州議事堂内での祝賀式典にて、ジュディ・ラビノヴィッチ名誉教授の平成29年度外務大臣表彰式を実施。



## ⑭ネブラスカビジネスセミナー・オマハ姉妹都市委員会年次総会での講演(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年4月20日
- 実施場所 ネブラスカ州オマハ市
- 関係機関 JETROシカゴ、ネブラスカ州政府、オマハ市
- 訴求対象 ネブラスカ州内ビジネス関係者、オマハ市民
- 開催規模 250名(全行程あわせて)
- 概要・効果

### 【概要】

ネブラスカ州オマハ市を訪問し、ネブラスカ州内のビジネス関係者向けのビジネスセミナーで総領事が日米経済関係について講演を行った。また、リケッツ・ネブラスカ州知事と面会し、オマハ市姉妹都市協会年次総会(日本では静岡市が姉妹都市)に州知事とともに参加。日本とオマハの関係についてのスピーチを行った。

### 【効果】

ビジネスセミナーは、①今年9月に州知事が日米中西部会参加のため経済ミッションを引率して訪日すること、②2018年の第50回目の日米中西部会はオマハ市で開催されることを背景に、日本との関係に特化してネブラスカ州側で企画されたもの。同州の日本企業からの直接投資、日本との貿易促進についての関心の高さがうかがわれた。

リケッツ州知事は日本を同州にとっての重要な経済パートナーとして認識しており、姉妹都市協会年次総会は静岡市を含むオハマ市と姉妹都市提携を結ぶ6ヶ国6都市の関係者が参加している中、リケッツ州知事のスピーチでは日本とネブラスカの経済関係の強さと9月に経済ミッションを引き連れて訪日することが紹介された。また州知事が日本人留学生による茶道のデモンストレーションに参加して抹茶を楽しみながら学生と懇談する一面もあり、人の交流、文化交流の側面でも良い機会となった。



## ②5 シカゴ日本祭(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年6月3日～4日(2日間)
- 実施場所 イリノイ州アーリントン・ハイツ市
- 関係機関 シカゴ日本祭共同実行委員会(日米評議会、シカゴ日本人会、シカゴ日本商工会議所等)
- 訴求対象 日本・日本文化に関心を有するシカゴ圏の地域住民
- 開催規模 約4,200名
- 概要・効果

### 【概要】

シカゴ近郊における最大の日本祭。

オープニングセレモニーにおける総領事の挨拶及び日本人ジャズピアニスト大江千里(NY在住)による演奏。総領事館ブースの出展。

様々なデモンストレーション(茶道、華道、和太鼓、日本舞踊、琴、柔道、空手、合気道等)、ワークショップ(書道、折り紙等)、展示(盆栽、日本刀等)、着物の着付け、鎧・兜の試着体験、コスプレ・コンテスト等を通じて日本及び日本文化を地域住民に幅広く紹介。

### 【効果】

来場した多数の地域住民に対して、伝統文化から現代のポップカルチャーに至るまで幅広く日本文化を紹介することにより、同地域における対日理解の促進と親日感の醸成に貢献した。

日本祭の企画、運営、実施を通じて、現地の日本関連諸団体や地元企業、地域コミュニティを含めた日米交流のネットワーク強化に繋がった。

総領事の挨拶及び総領事館ブースを通じて、日本政府のコミットメントとプレゼンスを示すとともに、日本とシカゴ圏・イリノイ州との友好関係を効果的にアピール。



## ②6 武井外務大臣政務官による日本酒・焼酎の普及促進(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年7月24日
- 実施場所 在シカゴ総領事公邸
- 関係機関 JETROシカゴ、日本シカゴ商工会議所等
- 訴求対象 一般市民(特に共和党支持者)
- 開催規模 約50名
- 概要・効果

### 【概要】

武井外務大臣政務官(当時)のシカゴ訪問の機会を捉え、シカゴ市関係者、日系食品業者、有識者、当地日米協会、日本商工会議所、日系人団体関係者等、ゲスト約50名を公邸に招き日本酒及び焼酎のPRを行ったもの。日本酒を扱う当地卸会社3社が出展し各社2種類、計6種類の日本酒が提供された。また、宮崎県の焼酎である黒霧島4本も提供された。

### 提供業者と提供された酒

TENZING :天と地(新潟県)、一ノ蔵(宮城県)と栗黒ビール(宮崎県)

Vine Connection :李白(島根県)と坤滴(京都府)

Kobrand Wine&Spirits :万流(山形県)と七本槍(滋賀県)

### 【効果】

出席者からは、「政府が主体となって日本酒のプロモーションを行うイベントは当地の日本酒普及に非常に有益。このような機会は大いに歓迎する」、「焼酎は初めて試飲したが、とても気に入った。今後日本酒と共に注目していきたい」などの感想が寄せられた。また、日本食の提供も好評であった。

本イベントでは、武井政務官から日本酒と焼酎のPRを直接行ったことから、日本政府として日本酒・焼酎の普及促進活動を行っていることを、食料産業関係者のみならず、幅広い分野の関係者に周知する効果もあり、ゲストの関心を集めた。



## ②7 アンダーソン日本庭園夏祭り(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年8月19日～20日(2日間)
- 実施場所 イリノイ州ロックフォード市
- 関係機関 アンダーソン日本庭園
- 訴求対象 日本・日本文化に関心を有するイリノイ州西部及び近郊の地域住民
- 開催規模 約2千名
- 概要・効果

### 【概要】

アンダーソン日本庭園夏祭りは北米屈指の日本庭園で行われる日本祭。オープニングセレモニーにおいて総領事が挨拶。

会場に当館広報ブースを設置し、国際交流基金所有の鎧兜の試着体験を行うとともに、各種広報資料や観光パンフを配布し、日本紹介を実施。

### 【効果】

本年6回目を迎えた夏祭りには、天候にも恵まれ、初日から多数の地域住民が来場。多数の人々が当館の日本紹介ブースを訪れ、鎧甲を鑑賞・撮影するとともに、パンフレットを手にとって説明を求める等、普段日本と関わりが少ない一般市民に直接日本を紹介する良い機会となった。

イリノイ州ロックフォード市はシカゴ市内から車で約2時間半の距離に位置しており、近隣住人は日頃から日本との接点があるとは言いが、日本語教育を行う地元高校もあり、また、総領事館管轄内有数の日本語教育実施校であるウィスコンシン大学マディソン校からもアクセスが容易な場所に位置しており、対日理解促進の潜在的可能性がある。

本件夏祭りを通じて日本の魅力と日本文化を積極的に発信することにより、日本語学習者に対する啓発及び近隣住民の対日理解促進を図ることができた。



## ②⑧米国連邦下院議員と同議員選挙区内への進出日本企業との意見交換(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年8月21日
- 実施場所 在シカゴ総領事公邸
- 関係機関 日本シカゴ商工会議所、JETROシカゴ
- 訴求対象 クリシュナムルティ連邦下院議員
- 開催規模 15名

### ■概要・効果

#### 【概要】

クリシュナムルティ(Raja Krishnamoorthi)連邦下院議員(民;イリノイ州8区)を公邸に招き、シカゴ日本商工会(JCCC)や同議員の選挙区内に進出する日系企業関係者(12社)との意見交換会を実施。

同議員の選挙区であるシカゴ市郊外の地域(シカゴ空港付近)は、交通の利便性を理由に、多数の日系企業事業所が存在し、米国連邦下院議員の選挙区としては、最多の日系企業事業所数及び雇用者数を誇る。

同議員と日本企業関係者間で、当地での事業内容、ビジネス環境、今後の地域コミュニティと企業の関係のあり方等について、昼食を交わしながら議論し、お互いの交流を深めた。

#### 【効果】

長年シカゴに在住するJCCC関係者から「連邦議員と日本企業の意見交換の場はこれまでほとんどなく、非常に有意義な会合であった。機会を設けていただき大変感謝している」との感想が述べられた。

クリシュナムルティ議員からは「この意見交換の機会を皮切りに、選挙区内の日本企業との交流を深め、日本企業の事業展開に適したビジネス環境の構築に努めて行きたい。」とのコメントが寄せられた。



## ②第41回セントルイス日本祭(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年9月2日～4日(3日間)
- 実施場所 ミズーリ州セントルイス市
- 関係機関 セントルイス日米協会、諏訪セントルイス姉妹都市協会、セントルイス日本人会、日系米国人市民同盟セントルイス支部等
- 訴求対象 日本・日本文化に関心を有するミズーリ州近隣の地域住民
- 開催規模 約3万8千人以上
- 概要・効果

### 【概要】

セントルイス日本祭は1977年以来続く米国中西部最大の日本祭。前日にパフォーマー、日本人・日系人団体、日系企業の代表者等を集めたレセプションを開催。オープニングセレモニーにおいて総領事が挨拶。

様々なデモンストレーション(和太鼓、盆踊り、エイサー、神輿、飴細工、氷細工等)、ワークショップ(茶道、樂焼き、書道、折り紙、紙芝居、合気道、柔道、空手、剣道等)、展示(生け花、鯉のぼり、灯籠流し等)を通じて日本及び日本文化を地域住民に幅広く紹介。

### 【効果】

ミズーリ州のみならず、近隣州から来場した何万人もの地域住民に対し、各種のデモンストレーション、ワークショップ、展示等を通じて日本及び日本文化を紹介し、米国中西部におけるグラスルーツでの対日理解促進に大きく貢献。

日本祭の開催を通じて現地の日本関連諸団体を含めた日米交流のネットワーク強化を図ることができた。総領事の挨拶及び前日のレセプション主催を通じて米国中西部に対する日本政府のコミットメントとプレゼンスを示すとともに、日本とミズーリ州との友好関係を効果的にアピール。



## ③0 地方キャラバン イリノイ州ピオリア市(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年9月18日
- 実施場所 イリノイ州ピオリア市
- 関係機関 ピオリア市、ピオリア経済開発公社、  
ピオリア商工会議所、ピオリア市進出の日系企業
- 訴求対象 州・連邦政府関係者、ピオリア地域ビジネス関係者、教育関係者
- 開催規模 50名(全行程あわせて)
- 概要・効果

### 【概要】

ピオリア市及び周辺地域のビジネス関係者と共に、ピオリア市に進出する日系企業であるPMP Fermentation Products Inc(扶桑化学工業)及びコマツ・アメリカの工場を視察。その後、昼食をはさみ、ピオリア地域における日系企業の貢献、日本とイリノイ州及びピオリア地域の更なる経済関係促進機会について関係者がプレゼンテーションを行った。セミナー後は、イベント参加者のネットワークングのためのレセプション及び夕食会を行った。

### 【効果】

今回「地方キャラバン」の第1回目として、ピオリア市長をはじめ、ピオリア圏の地域関係者から多大な支援を受け、本イベントを成功裡に開催することができた。経済セミナーでは州議会議員、連邦議員補佐官、ピオリア地域の経済・高等教育関係者が集まり、日系企業の活動について理解を深めてもらうとともに、日ピオリアの強固な経済関係を発信することができた。

当日は地元メディアより本官に対しラジオ及びテレビインタビューが行われたほか、地元のラジオ局(WMBD)の朝の番組(クレイグ・アンド・ダン・ショウ)に生出演し、日本とピオリア地域の経済関係等について説明した。インタビュー及びイベントの様子はピオリア市の公共ラジオ放送や地元紙で報じられた。



### ③1 シカゴ・グルメの機会における和食・日本酒紹介事業(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年9月22日～24日(3日間)
- 実施場所 イリノイ州シカゴ市
- 関係機関 東京都、JETRO等
- 訴求対象 飲食関係者(レストラン・ホテル・卸売り業界関係者、フード・コメンテーター等)、メディア関係者(フード記者、トラベル・ライター等)
- 開催規模 約1万1千人
- 概要・効果

#### 【概要】

10周年を迎えるシカゴ圏最大の食のイベント「シカゴ・グルメ」に本邦から料理研究家である柳原尚之(平成27年度文化交流使)を招き、パネル・ディスカッション、和食レクチャー・デモンストレーション、ラジオ出演等を通じて和食と日本酒の魅力を発信。シカゴ中心部の野外音楽堂のメイン・ステージにて柳原氏ほか日本人シェフ等5名によるジャパニーズ・ディナーを実施。

パネル・ディスカッション及びジャパニーズ・ディナーにおいて総領事が挨拶。当館も東京都等とともにシカゴ・グルメ会場に日本ブースを設置し、和食・日本酒及び観光地としての日本の魅力につき広報。

#### 【効果】

シカゴ圏の飲食関係者が一堂に集う本イベントにおいて和食・日本酒の魅力を発信することにより、当地レストラン等において、和食及び和食材を使用した料理や日本酒を提供するための機運を高めることに貢献。

和食専門家等によるパネル・ディスカッションやレクチャー、日本ブースでの情報発信を通じて、和食及び日本酒に対する関係者の理解促進に寄与。

総領事の挨拶及び日本ブースを通じた広報により、和食及び日本酒のプロモーションに対する日本政府のコミットメントとプレゼンスを示した。



## ③②第20回大カンザスシティ日本祭(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年10月7日
- 実施場所 カンザス州オーバーランド・パーク市
- 関係機関 米国中部日米協会、ジョンソン郡コミュニティ・カレッジ
- 訴求対象 日本・日本文化に関心を有する大カンザスシティ圏  
(カンザス州とミズーリ州の境界周辺)の地域住民
- 開催規模 約5千人
- 概要・効果

### 【概要】

旧カンザスシティ総の呼び掛けで始まった米国中部最大の日本祭。オープニングセレモニーにおいて総領事が挨拶。

様々なデモンストレーション(和太鼓、琴、三味線、日本舞踊、エイサー、飴細工等)、ワークショップ(日本語、折り紙、書道、合気道、剣道等)、レクチャー(茶道、着物、日本庭園等)、展示(生け花、盆栽、鳥居等)を通じて日本及び日本文化を地域住民に幅広く紹介。

### 【効果】

米国中部の近隣州から来場した多数の地域住民に対して、和太鼓等のパフォーマンスのみならず、大小の教室を利用した各種ワークショップやレクチャーを通じて日本に関する知識を体験として身に着ける複合的な機会を提供。

米国中部におけるグラスルーツでの対日理解促進に大きく貢献するとともに、現地の日本関連諸団体や地元企業を含めた日米交流のネットワーク強化にもつながった。総領事の挨拶を通じて米国中部に対する日本政府のコミットメントとプレゼンスを示すとともに、日本と米国中部との友好関係を効果的にアピール。



### ③③ネブラスカ州知事主催政治集会「Steak Fry」(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年10月8日
- 実施場所 ネブラスカ州シェルトン市内農場(PG Farms)
- 関係機関 ネブラスカ州政府
- 訴求対象 一般市民(特に共和党支持者)
- 開催規模 約1,300名
- 概要・効果

#### 【概要】

リケッツ・ネブラスカ州知事(共)が明年11月選挙に向けた再選キャンペーンの一環として実施。総領事がリケッツ州知事からの招待で参加。同州農業及び畜産の振興をテーマとして、会場となった農場では、参加者にステーキが提供された。

一般参加の野外レセプションでは、リケッツ知事及び共和党所属の3知事(ウィスコンシン州、ミズーリ州及びケンタッキー州)が登壇し、再選支持を訴えるスピーチを行った(アイオワ州知事も出席予定であったが、急遽欠席)。リケッツ知事及びウィスコンシン州知事によるスピーチでは、州経済関係の文脈で、日本との経済関係の重要性ならびに中西部会参加に伴う訪日貿易ミッションへの言及と、総領事による本行事出席が紹介された。

#### 【効果】

ネブラスカ州及び中西部における日系企業の貢献や対日経済関係の重要性について、一般参加者及び同州政治家が多く集まる場での知事スピーチに取り上げられたことで、対日理解促進及び対日関心層拡大の機会となった。また、スピーチ内で総領事の本行事出席が言及され、レセプションにて一般市民を含む同州関係者との交流を行ったことは、日米協会等の団体が存在しない地方における日本のプレゼンス向上につながった。



### ③④ 地方キャラバン インディアナ州コロンバス市(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年10月24日
- 実施場所 インディアナ州コロンバス市
- 関係機関 JETROシカゴ、コロンバス市、コロンバス市進出の日系企業
- 訴求対象 コロンバス市内ビジネス関係者、コロンバス市民
- 開催規模 20名(全行程あわせて)
- 概要・効果

#### 【概要】

コロンバス市に進出する日系企業であるTOYOTA Industrial Equipmentの工場を視察。その後地元メディアを集めて総領事が市長と日本とコロンバスの関係について対談を行いその模様は翌日記事になり報じられた。会談後、市内の日本食レストランにてコロンバス市内のビジネス関係者間で意見交換を行った。

#### 【効果】

インディアナ州でのキャラバンをペンス副大統領の地元であるコロンバス市から開始できたことは、今後引き続き同様のイベントを企画・実施する上でも大きな成果。

市長をはじめ参加者からは、本イベントは、地域の経済関係者が一堂に会するよい機会となり地域内での日本企業・関係者との交流関係促進という観点でも大変有意義なものであったという感想が寄せられた。市長は2年の在任中初めて外国政府関係者と招いたとのことであった。

総領事と市長の会談についてのメディアによる報道が行われたことに加え、本イベントについては州都インディアナポリスのメディアでも紹介され、コロンバス市内を越え、州内に報道されたことは有益であった。



## ③5 地方キャラバン イリノイ州ロシェル市(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年11月10日
- 実施場所 イリノイ州ロシェル市
- 関係機関 JETROシカゴ、ロシェル市、イリノイ州政府
- 訴求対象 ロシェル市内ビジネス関係者、ロシェル市民
- 開催規模 35名(全行程あわせて)
- 概要・効果

### 【概要】

ヘリコプターにて上空から市内のインフラや産業施設の集積度を俯瞰した。その後ロシェル市内の米国企業であるSilgan.inc(加工食品用金属缶製造)、Mighty Vine(トマトの温室水耕栽培)を視察した。市内のホテルにて昼食をかねてロシェル市内のビジネス関係者間で意見交換を行った。ロシェル市が運営する施設「テクノロジーセンター」を視察後、市庁舎にて、地元メディアによる記者会見を行った。

### 【効果】

イリノイ州ではピオリア市に続く2カ所目の開催。イリノイ州政府と協力してイベントを開催できたのは一つの成果。州政府と一体になって取り組んだことで、ロシェル市側にとってもプロモーション効果の広がり観点で非常にメリットがある。

州政府や市政府の招待により、日本企業のみならず、日本企業とビジネスを行っている現地の米国企業も多数参加。このような企業を総領事館で把握することは困難であり、州政府や市政府と協力することで可能になったネットワーキングであった。

当日は祝日にもかかわらず多くの参加者が集まり、同地域の日本企業に対する期待感の高さを示すものであった。



## ③⑥ 地方キャラバン ミズーリ州セントルイス市他(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年11月17日～20日
- 実施場所 ミズーリ州セントルイス市、ジェファーソンシティ市、コロンビア市
- 関係機関 ミズーリ州政府、コロンビア市、ミズーリ大学、セントルイス大学
- 訴求対象 セントルイス大学
- 開催規模 60名(全行程あわせて)
- 概要・効果

### 【概要】

ミズーリ州セントルイス市、セントチャールズ市(注)、ブリッジトン市、コロンバス市、ジェファーソンシティ市を訪問。日系企業の訪問としてセントチャールズ市ではNovus International(飼料添加物生産)、ブリッジトン市ではZoltek Corporation(炭素繊維生産)を視察した。セントルイス市ではセントルイス大学で外交を学ぶ学生に対し総領事が日米関係について講演した。

コロンバス市では市長と面会し、日・ミズーリ関係について説明。ミズーリ州立大学を訪問し、国際交流関係者と意見交換を行った。グライテンズ・ミズーリ州知事との面会を行い、視察した日系企業や大学での意見交換の内容を含め、日・ミズーリ関係について意見交換。

(注)セントチャールズ市には、11月29日にトランプ大統領が訪問し共和党提案の税制について講演。

### 【効果】

セントルイス大学での講演では、講演後の質疑応答も活発に行われ、受講者の日米関係への理解が深まりに寄与。

ミズーリ州知事やコロンビア市長は、対日関係について非常に好意的であった。

ミズーリ州は長野県との姉妹交流関係にあり、2018年4月に開校予定の長野県立大学はミズーリ州立大学と留学プログラム等で提携することになっており、今後同地域での新たな対日関係の構築に期待。



### ③7 地方キャラバン イリノイ州エフイングハム市マウント・バーノン市(シカゴ総領事館)

- 実施時期 2017年11月28日、29日
- 実施場所 イリノイ州エフイングハム市及びマウント・バーノン市
- 関係機関 エフイングハム市及び同市地域振興協会、ジェファーソン郡経済開発公社、マウント・バーノン市、州政府、州南部進出の日系企業、JETROシカゴ
- 訴求対象 州・連邦政府関係者、州南部地域のビジネス関係者及び教育機関
- 開催規模 100名(全行程あわせて)
- 概要・効果

#### 【概要】

28日、地元関係者とともにワウパカ社(日立金属子会社)を視察。その後、市長及び地域振興協会のメンバーを交えた夕食会を行った。29日、州政府関係者及び地元関係者とともに日系企業と強い関わりのある地元企業2社及びアイシンの工場を視察。途中、Rend Lake Collegeにて労働力と教育についてオープン・ディスカッションを行った。当日はラウナー・イリノイ州知事が参加し、日本とイリノイ州の更なる関係強化を促した。夕刻、地元の美術館でイベント参加者とのネットワーキングのためのレセプション及び夕食会を行った。

#### 【効果】

今回はジェファーソン郡経済開発公社を始めとする関係機関の協力の下、州南部で初めてキャラバンを開催した。トランプ支持者の多いジェファーソン郡(得票率は70%)にて州・連邦政府関係者、州南部地域のビジネス関係者に地元の日系企業の活躍及び地域との良好な関係について理解を深めてもらうとともに、地元の方々との関係構築ができた。当日は地元メディアより総領事及び知事へのテレビインタビューも行われ、地元紙等で大きく報じられた。

地方キャラバンについては州政府にも取組の趣旨を説明した結果、前回のロシェルでの開催よりイリノイ州政府の協力も得ていたところ、この度ラウナー州知事参加に至った。州側が「グラスルーツ・キャラバン」という言葉を用いて、日本の取組を発信してくれていることの影響は大変大きい。



## ③⑧サギノー日本祭り(デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年9月17日
- 実施場所 ミシガン州サギノー市
- 関係機関 サギノー市日本文化センター
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約500名

### ■概要・効果

#### 【概要】

徳島市との姉妹都市交流によって建築された本格的な数寄屋造りの茶室「阿波鷺能庵」がある日本庭園を会場とした日本祭りを共催。

ステージでは和太鼓、沖縄エイサー、剣道、阿波踊り、日本舞踊のパフォーマンスが披露されたほか、書道・折り紙・日本の伝統遊び等の体験コーナーが設けられた。

また、茶室では茶道(表千家・裏千家)のデモンストレーションが英語解説付きで行われ、事前チケットが完売するほど、関心の高さが伺えた。

#### 【効果】

家族連れを中心とする多くの来場者が日本文化を楽しむ様子が覗えた。当日はローカルTVの取材も入り、総領事及びサギノー日本文化センター所長で両市の交流に長年尽力しているモスナー陽子女史(平成28年秋の叙勲受章者)へのインタビューが行われ、祭りの模様と合わせて当日放送され、地元の人々の手によって長年支えられている日米草の根交流を広報する良き機会となった。



### ③9 ノバイ日本祭り(デトロイト総領事館)

■実施時期 2017年10月1日

■実施場所 ミシガン州ノバイ市

■関係機関 JSDウィメンズクラブ、デトロイト日本商工会、  
ミシガン・南西オンタリオ日米協会、ノバイ市ほか

■訴求対象 一般市民

■開催規模 3千名以上

■概要・効果

#### 【概要】

日本語補習校が所在し在留邦人が集中するミシガン州ノバイ市にて、同州最大規模の日本祭りを共催。会場では茶道や書道のデモンストレーションのほか、射的や縁日コーナーが設けられ、多くの一般市民が訪れた。

デトロイト総領事館では会場の一角で、公邸料理人による和菓子ワークショップを実施し、和菓子を切り口とした日本文化紹介を行った。

#### 【効果】

対日理解促進を図るとともに、日本のプレゼンスと在留邦人の生活拠点となっている地元コミュニティへの謝意を示す機会となった。



#### ④⑩ 在日米軍経験者レセプション(デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年10月19日
- 実施場所 オハイオ州デイトン市
- 関係機関 特になし
- 訴求対象 ライト・パターソン空軍基地関係者他
- 開催規模 約50名
- 概要・効果



上記基地の在日米軍経験者を中心に、同地域選挙区選出の議会関係者、タフト元オハイオ州知事、日系コミュニティ関係者が参加するネットワーキングイベントを実施。在日米軍経験者に対して日本の良き思い出を思い出してもらおうとともに、参加者に対して改めて日米同盟の重要性を再認識する機会となった。また、同地域において原伸郎・JPモルガン・エグゼクティブディレクターが進める桜植樹プロジェクトについても紹介し、日系コミュニティによる地域への貢献状況を紹介した。

#### ④⑪ 桜1000本植樹プロジェクト(デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年10月19日
- 実施場所 オハイオ州デイトン市
- 関係機関 特になし
- 訴求対象 同地域の政治経済文化関係者、一般市民
- 開催規模 約50名
- 概要・効果



オハイオ州デイトン地域において原伸郎JPモルガン・エグゼクティブディレクターが中心となって進めている桜植樹プロジェクト「オペレーション1000チェリーツリー計画」の千本目の植樹記念式に出席した機会を捉え、同氏に総領事表彰を授与。

当日の様子や総領事による挨拶(原氏は日米相互理解の拡大に貢献したコミュニティリーダーであること、モンゴメリー郡で日系企業は3千人を雇用していることなど)は地元紙に掲載された。

## ④2 デトロイト美術館における日本ギャラリーオープニングイベント「Japan Cultural Days」 (デトロイト総領事館)

- 実施時期 2017年11月2日、4～5日(3日間)
- 実施場所 ミシガン州デトロイト市
- 関係機関 デトロイト日本商工会(JBSD)、  
デトロイト美術館(DIA)
- 訴求対象 一般市民、州政府・デトロイト市  
市議会関係者他
- 開催規模 7千名以上
- 概要・効果

### 【概要】

デトロイト市財政破綻直後に当地日系企業がDIAに寄付した計320万ドルのうち25%を使い、DIAに常設日本ギャラリーがオープンした。オープニング式典(2日)ではミシガン州知事のほか滋賀県副知事(ミシガン州と姉妹州県)、豊田市長(デトロイト市と姉妹都市)等自治体関係者も駆けつけ、テープカットセレモニーや鏡開き等を含む式典が盛大に行われた。4～5日にかけては日本及び米国内から招聘した7組8名の職人、4組57名の文化団体、3名の講師による伝統工芸品・かるた・武術・日本舞踊・和菓子・煎茶等の多岐に亘るテーマの公演・レクチャー・デモンストレーション・ワークショップがDIA内で行われた。

### 【効果】

両日合わせて来館者7千人を超える大盛況となり、当地一般市民の日本文化への関心の高さが伺えた。ギャラリーオープンは地元大手新聞やTVでも報道され、日系企業コミュニティによる地元への経済・文化的貢献をPRする良き機会となった。



## ④3 アジア系米国人グループ主催経済セミナーでの講演(デトロイト総領事館)

■実施時期 2017年11月14日

■実施場所 オハイオ州クリーブランド市

■関係機関 Asian American Pacific Islander Advisory Council  
(ケーシック・オハイオ州知事の諮問機関)

■訴求対象 アジア系米国人、オハイオ州ビジネス関係者他

■開催規模 100名以上

■概要・効果

### 【概要】

日系企業のオハイオ州への貢献状況、経団連のコロンバス訪問、トランプ大統領の訪日結果などを総領事が講演し、日本とオハイオ州の強固な関係について参加者にインプット。

また、講演の後には、クリーブランドを含むオハイオ州とミシガン州における日系企業への支援・日本文化の普及等の取組について、ジャクソン・クリーブランド市長名の表彰状が授与された。

### 【効果】

オハイオ州におけるアジア系米国人との間のネットワークを強化する上でも非常に有益であった。



## ④④和風作りワークショップ及び和風フェスティバル(デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年9月26日～10月1日(6日間)
- 実施場所 現地小学校2校、高校1校、大学1校(ワークショップ)  
現地公園(和風フェスティバル)
- 関係機関 コロラド日米協会、デンバー市政府、デンバー市観光局、  
サクラ財団、国際交流基金
- 訴求対象 当地米国人学生及び一般米国人
- 開催規模 計1千名以上

### ■概要・効果

#### 【概要】

日本から招待した和風職人が和風に関する概要を説明しながら和風の作り方などを教えるワークショップを当地の学校で開催し、計600名の米国人学生が、和紙と竹を使って和風作りを行った。また、デンバー市内の公園において和風フェスティバルを開催し、約400人の一般米国人が和風に親しんだ。

#### 【効果】

和風フェスティバルでは、連風のほか、江戸時代より受け継がれてきた様々な江戸風があがる様子を、多くの米国人が楽しみ、日本の伝統文化への関心と理解を高めることができた。



#### ④5 月見会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年9月30日
- 実施場所 シャトクア公園(コロラド州ボルダー市内)
- 関係機関 JETAAロッキーマウンテン支部
- 訴求対象 当地一般米国人
- 開催規模 30名
- 概要・効果

JETAA活動について紹介することをはじめ、和楽器演奏、盆踊り指導、月見を通じて、JETAA会員のみならず、コロラド州ボルダー市近郊の一般市民に日本文化を理解してもらうことができた。

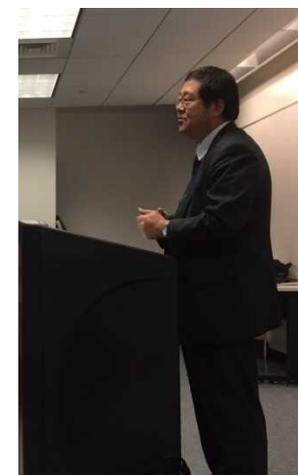


#### ④6 米空軍士官学校講演会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年11月2日
- 実施場所 米空軍士官学校(コロラド州コロラド・スプリングス市内)
- 関係機関 米空軍士官学校
- 訴求対象 米空軍士官候補生
- 開催規模 約20名
- 概要・効果

米空軍士官学校からの求めに応じ、総領事が同学校の授業において、日本の外交政策・日米関係等につき講演を行った。

米空軍士官候補生に日本の外交政策・日米関係等について理解を深めてもらうことができた。



## ④7 第31回コロラド・ワイオミング州 日本語弁論大会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年11月4日
- 実施場所 ファースト・バプテスト教会(コロラド州デンバー市内)
- 関係機関 コロラド日本語教育会、コロラド日米協会、国際交流基金
- 訴求対象 当地米国人学生及び一般米国人
- 開催規模 210名
- 概要・効果

当地で日本語を学ぶ学生が日頃の日本語学習の成果を披露する弁論大会。日本語学習者の目標の一つとなっており、日本語学習意欲を喚起するとともに、日本への関心と理解を高めることができた。



## ④8 ユタ大学講演会(デンバー総領事館)

- 実施時期 2017年11月7日
- 実施場所 ユタ大学(ユタ州ソルト・レイク・シティ市内)
- 関係機関 ユタ大学
- 訴求対象 ユタ大学の学生及び教員
- 開催規模 55名
- 概要・効果

ユタ大学からの求めに応じ、総領事が同大学において、日本の外交政策・日米関係につき講演を行った。参加者に日本の外交政策・日米関係について理解を深めてもらうことができた。



## ④9 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(デンバー総領事館)

■実施時期 2017年11月29日～12月1日

■実施場所 コロラド州デンバー市、コロラドスプリングス市、オーロラ市

■関係機関 官邸国際広報室

■訴求対象 当地米国人学生、一般米国人、在日米軍勤務経験者等

■開催規模 350名

### ■概要・効果

島内元ブラジル駐劬特命全権大使を団長とする一行が当地の大学、基地等を訪れ、各訪問先に於いて講演会等のイベント開催し、日本の強み・魅力や「元気な今の日本」をアピールすることができた。



## ⑤0 在日米軍経験者とのネットワーク構築・強化事業(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年3月30日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市内(公邸)
- 関係機関 テネシー州退役軍人サービス省
- 訴求対象 在日米軍経験者、日米関係協力者他
- 開催規模 約30名
- 概要・効果



当日、州内広域に暴風雨警報等が発令されたことを受け、連邦・州議会議員や暴風域在住者の欠席が生じたが、グラインダー・テネシー州退役軍人サービス省(TNDVS)長官他、在日米軍経験者を含む約30名の参加を得た(去年は約60名)。

総領事挨拶では、在日米軍経験者の日米同盟及び日本の安全保障への貢献や、6周年を迎えた東日本大震災に関し、米軍によるトモダチ作戦を始めとする米軍の援助が災害復興への道筋を作ったことに感謝の意を述べた。さらに日米防衛ガイドラインの改定に触れつつ、日米安全保障体制の重要性を強調。さらに、日テネシー州関係について、約190社の日系企業が州内で約5万人を雇用し州経済に大きく寄与している点に言及した上で、在日米軍経験者が、日米間の架け橋の役割を担っていることに感謝し、更なる日米交流への協力を求めた。

グラインダー長官は、2回目の会合に謝意が表され、日系企業は州経済全体に大きく貢献していることに加え、退役軍人との関係においても、翌日に日系企業が退役軍人を対象とした就職説明会を開催する等、日系企業とのパートナーシップが深化しており、今後も一層の連携を深めることを望む旨述べる等、参加者に州政府と足並みをそろえ日米関係の重要性を再認識してもらう機会となった。会場では、琴及び尺八の生演奏を行い、食後、餅つきも実施。また、首相官邸YouTubeチャンネルに掲載のトモダチ作戦を展開した在日米軍への謝意を表した「Friends - we thank you!」等を放映した他、総領事による東日本大震災5周年の際の当地「テネシアン紙」に対する寄稿記事、桜祭りやジャパン・ウィークに関するパンフレット、及びJUMPの案内等を配布した。

## ⑤1 第1回ジャパン・ウィーク(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2017年3月30日～4月9日(11日間)

■実施場所 テネシー州ナッシュビル市内各地

■関係機関 テネシー州退役軍人サービス省、テネシー日米協会(JAST) JASTヤング・プロフェッショナル、Tennessee Foreign Language Institute、JETAA、テネシー世界評議会、ベルモント大学、チークウッド植物園、ナッシュビル日本映画祭、寿司アカデミー

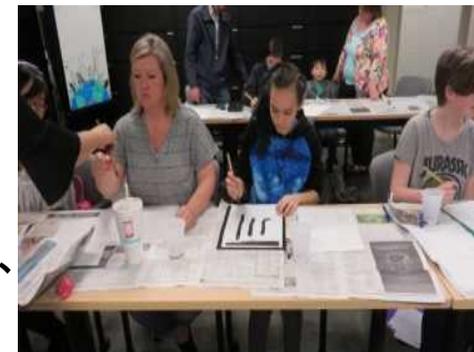
■訴求対象 在日米軍経験者、JET帰国者・協力者、一般市民、学生他

### ■概要・効果

ナッシュビル桜祭りが米国南部における最大の日本祭りに成長したことを受け、桜祭りに向けて、日本・日米関係に関する情報を更に発信し、日本文化に触れる機会を創出することを通じ、対日理解を促進すべく、3月30日から4月9日にわたり「第1回ジャパン・ウィーク」を企画・開催。日米安全保障同盟、日米経済関係、日本文化(日本庭園、自然、映画)、

日本語・教育、日本食等、多様な観点から、当地の学生から在日米軍経験者、JETAA等、幅広い市民層を対象に草の根レベルの情報発信を行い、短期間の準備ながら多くの参加を得た。

当館は、協力各組織への呼びかけ・調整を主に担い、総領事が当地主要紙である「テネシアン紙」に寄稿記事を投稿したほか、総領事をはじめ、関係館員・職員が全行事に出席し、情報発信及び交流に努めた。なお、中心となったナッシュビル桜祭りは、去年の50%増の約4.5万名の参加を得た。



## ⑤第9回ナッシュビル桜祭り(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年4月8日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市内
- 関係機関 ナッシュビル市役所、テネシー日米協会（JAST）  
ナッシュビル姉妹都市委員会
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約4万5千人
- 概要・効果

今年9回目を迎えた総合的な日本フェストであるナッシュビル桜祭りは、近年、日本祭としては南部最大のものとなっている。また、その一環として、日米友好の印である桜の木を毎年約100本ずつ市内に植樹し、これまでに約900本の桜がナッシュビルに日米友好の輪の根をつけている。祭は、5キロ程の「桜ウォーク」により幕を開け、開会の挨拶の後、ステージにおける太鼓を始めとする日本文化関連の演奏やデモンストレーション、約130のブースにおける日本文化関係の催しや物品紹介等が盛況を極めた。日本食への関心も高く、フードトラック・屋台数は30以上に増強したが、早々に売り切れが続出する状況であった。当館も全館体制にて全体の運営支援に加え、文化を中心に日本関連情報の効果的な発信を行うべく、餅つき、浴衣試着、盆踊り、子供向けの遊び等の文化体験の機会を主導するとともに、レクチャー・シリーズを通じて、茶の湯や盆栽の実演、日本語講座、及びJETやカケハシ・プログラムの参加者が日本における経験に係る講演も実施し、日本関連資料の配付・説明も行った。本年度は参加者数が過去最高となったのみならず、総領事による当地主要紙への寄稿記事やメディアによる紹介、SNS等の様々な広報や日頃のアウトリーチの成果を受け、ダイバーシティに溢れるナッシュビルらしいイベントともなった。本祭りは、今秋、地元「ナッシュビル・シーン」誌の記者が選ぶ「最も家族向けの祭り」に選出され、日本及び日本文化の紹介、親日感の醸成にも大きく貢献した。



## ⑤3 テネシー日米協会年次総会(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年6月16日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市内
- 関係機関 テネシー州知事室、テネシー日米協会(JAST)、JETRO、日系企業、州内大学他
- 訴求対象 テネシー州政府関係者、日米協会関係者他
- 開催規模 約120人
- 概要・効果



テネシー州副知事はじめ日米協会関係者等約120名が集まったJASTの年次総会において、総領事より「変化と継続」をテーマに総括基調スピーチ、首席領事より東京オリンピック・パラリンピックの準備状況を説明した。

冒頭、ヘンリー副知事が、日テネシー関係、特に経済関係の現状を説明し、さらに総領事館の役割、日米協会の活動等に謝意を示した。

総領事の総括基調スピーチでは、世界各地の情勢の変化を概観した上で、トランプ新政権の下での日米関係が、変化に対処しつつ盤石のスタートを切り、日米同盟関係は、価値観の共有と信頼の下、更なる強化が図られていることについて発信を行った。日・テネシー州関係については、安全保障、経済、人的結びつきを柱とする日米関係のモデルケースとなっていることを、日米安保関係を支える防衛装備・技術の両国防衛産業間の協力を議論する日米(防衛)技術フォーラム(これまでに28回開催)や、約190社の日系企業が5万人以上の雇用を創出していること、また、日米協会の多大な協力の下、ナッシュビル桜祭りが米国南部最大の日本文化祭りに成長したことに触れつつ説明し、また、日米協会の活動に深甚なる謝意を表明した。

その他、ナッシュビルのスポーツ産業(NFL・NHL)と当地に本社を置く日系企業が、夫々にブランド力を発揮し相互利益を得ていることを紹介するパネル討論、日テネシー経済関係の現状と今後、州内のコミュニティレベルにおける日本との関係強化についてのパネル討論がなされ、テネシー州における日米関係の様々な側面が紹介される機会となった。

## ⑤④ ハガティ次期駐日大使就任祝賀・歓送レセプション(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2017年7月31日

■実施場所 テネシー州ナッシュビル市内(公邸)

■関係機関 州政府、テネシー日米協会

■訴求対象 州知事以下の州政府要人、日本との関係の深い米国人日系企業代表に加え、ハガティ大使の友人として多くの当地における名士

■開催規模 約100人

### ■概要・効果

テネシー州出身であり、同州経済開発長官も務めたハガティ駐日大使の就任を受け、当地有力者等を招き、ハガティ次期駐日大使就任祝賀・歓送レセプションを実施したところ、対日関心の更なる掘り起こし、和食、日本酒、日本産ワインの紹介に役立った。

ハガティ次期駐日大使夫妻及びご家族、ハズラム・テネシー州知事夫妻、経済開発長官、労働長官、退役軍人長官等の賓客、日系企業代表、友人を含め客側100名の出席を得た本レセプションの際の総領事挨拶の要約版をハガティ大使の赴任にあわせて当地主要紙「テネシアン紙」に投稿したところ、同記事が掲載され、一般市民に対しても日米関係全般と日・テネシー関係に関する発信・アピールにも繋がった。



## ⑤第4回ノックスビル・アジア・フェスト(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2017年8月27日

■実施場所 テネシー州ノックスビル市

■関係機関 ノックスビル市、アジア・フェスト実行委員会

■訴求対象 一般市民、学生他

■開催規模 約3万人

### ■概要・効果

州東部のノックスビル市在住の邦人が中心となり開始した、アジア文化を紹介する行事。4回目を迎えた本年は、市長をはじめとした、市・郡政府の関係者も開会式に参加するなど、約3万人(過去最多)の集客となった。日本をはじめとし、中国、韓国、フィリピン、インド、タイ等様々なアジア諸国が参加し、ブースや屋台を出展すると共に、ステージにおいて民族舞踊や楽曲が披露された。

日系企業が大口スポンサーを務めたことから、ステージ近くを日系企業ブースや当館のブースが占め、また、開会の挨拶では、直前に姉妹都市である室蘭市を訪問した市長や日系企業代表者、補習校関係者、姉妹都市交流関係者が挨拶したほか、総領事からのメッセージも読み上げられ、総領事からのメッセージには観衆から拍手が寄せられるなど、アジアの祭典であるも、地域経済・社会に大きく貢献している日本の存在を一般市民にアピールする機会となった。



## ⑤6 レキシントン夏祭り(ナッシュビル総領事館)

■実施時期 2017年9月9日

■実施場所 ケンタッキー州レキシントン市

■関係機関 ケンタッキー日米協会

■訴求対象 一般市民、学生他

■開催規模 約1万人

### ■概要・効果

経済面を中心とした対日関心は高いものの、日本文化に直接触れる機会が少ないケンタッキー州レキシントン市及びその近郊の一般市民や学生などに対して、総合的な日本文化を紹介する行事。第9回目となった本年は、約1万人の市民の参加を得た。

ステージでは、和太鼓、日本の楽曲を中心としたジャズ演奏、琴の演奏等に加えコスプレコンテストも行われた。また、会場では、武道デモンストレーション、書道や折り紙ワークショップ、日本観光誘致などを実施するブースが出展され、当館は、一般市民が日本の伝統的な玩具に実際に触れる機会を創出する他、「にぽにか」等各種広報資料を配付すると同時に、ポスター等を展示することを通じて、日本紹介を実施。

会場では、カレーやおにぎり等家庭的な料理から、焼き鳥、日本のお菓子、日本酒等幅広く日本食を紹介することにも注力がなされ、日本食の屋台の前には行列ができるなど、高い反響を得た。さらに、ステージ近くにはレキシントン近郊に工場をもつヨタが新型カムリを展示するなど、スポンサー・日系企業をアピールする工夫もなされ、あらゆる側面から一般市民に日本を紹介する機会となった。



## ⑤7 第1回メンフィス・ジャパン・フェスティバル(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年9月24日
- 実施場所 テネシー州メンフィス市メンフィス植物園
- 関係機関 テネシー日米協会 (JAST)
- 訴求対象 シェルビー郡、メンフィス市関係者、一般市民、学生他
- 開催規模 約6千名
- 概要・効果



メンフィス市長室及びシェルビー郡長室の強力な支援の下、テネシー州経済開発省が最大の、また、ブラザーやNKCアメリカ等メンフィス日本企業がそれぞれ大口スポンサーとなった総合的な日本文化紹介行事。当日は事前の見込みを大きく上回る6千名近い参加者を得た。セレモニーでは、シェルビー郡長、不在のメンフィス市長代理として参加した同市前市議会議長、パールJAST名誉会長、総領事が挨拶。シェルビー郡長及びメンフィス市長が署名した、当日を「日本友好の日」とする旨の宣言が読み上げられた。総領事からは、会場となったメンフィス植物園(日本庭園あり)の長年にわたる日米友好への貢献に対する在外公館長表彰も実施した。



フェスティバルでは、和太鼓演奏、文楽、コスプレ・コンテスト等のステージ行事に加え、空手道等の武術紹介や浴衣の着付け、折り紙ワークショップ、玩具の金魚釣り、習字、碁等、様々な日本文化の体験の機会を提供するとともに、「カルチャー・キャンプ」と題して文楽、生け花、メンフィス大学教員によるミニ日本語講座、日本庭園ツアー等、幅広く日本文化紹介を行った。

本事業は、州西部における日本コミュニティによる経済・社会貢献をアピールすると共に、メンフィス及びアーカンソー州・ミシシッピ州を含む隣接地域における日米経済関係を今後盛り上げることに期待も込めて企画がなされた。第1回ではあったが、地域自治体の熱意、州政府の関心の高さ、日本への期待の高さといった要素、及び日本語学科を有するメンフィス大学の存在、約50年前に建築された日本庭園「静寂園」を有する植物園、交通の要衝という立地条件等のメリットを活かし、幅広くグラスルーツ発信を行う機会となった。

## ⑤8 月見祭り(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年10月8日
- 実施場所 テネシー州ナッシュビル市チークウッド植物園
- 関係機関 チークウッド植物園
- 訴求対象 一般市民、学生他
- 開催規模 約300名
- 概要・効果

茶道や琴、日本舞踊を含む伝統文化からヨーヨー釣り、習字や紙芝居まで、日本文化の様々な側面の紹介を通じ、当地の一般市民に幅広く日本文化の魅力を発信し、対日理解を促進すると共に、チークウッド植物園内にある日本庭園の認知度を高め、在留邦人と米国人の交流を深めることを目的とした総合的文化事業。3年目となった本年は、あいにく、ハリケーンの襲来を受け、当日、一時は豪雨に見舞われたものの、約300名の参加を得た。

当日は、雨天のため日本庭園ガイドツアーや天文観測が中止されたものの、茶道のデモンストレーション及びレクチャー、日本舞踊、紙芝居、琴の演奏等は、時間を調整しつつ屋内にて実施し、茶席(薄茶サンプルも配布)は満席となった。更に、チークウッドの依頼にて、総領事と先方代表の挨拶も実施。書道、月見や日本の秋をイメージする飾りを施した内輪作り、俳句コーナー、ヨーヨー釣りなど、雨天でも文化体験を楽しむことができるキッズコーナーを充実させた。更に日本の月見を紹介すべく、ススキや月見団子、ウサギの折り紙等が入り口とメイン会場に飾られ、月見団子に手を伸ばす来客者の姿も見られた。会場では、日本食料品店が月見団子やたこやき等を販売し、文化紹介に加え日本食紹介にも繋がった。春の桜祭り・秋のお月見祭りとして本祭りを確立することで、地域において日本の四季折々の風習に触れてもらう機会を創出することにより、日本に対する持続的な関心を惹起する効果をもたらす行事となった。



## ⑤9 ニューオーリンズ・ジャパン・フェスト(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年10月14日
- 実施場所 ルイジアナ州ニューオーリンズ市  
ニューオーリンズ美術館 (NOMA)
- 関係機関 ニューオーリンズ日本人会、NOMA
- 訴求対象 一般市民、学生他
- 開催規模 約3,520名
- 概要・効果

武道を含む多様な伝統文化からポップカルチャーまで、日本文化の様々な側面及び魅力をニューオーリンズの一般市民に発信し、対日理解を促進する総合的な日本文化紹介事業。和太鼓の演奏を合図に始まったセレモニーでは、NOMA代表者と総領事がオープニングの挨拶を行い、約3,520名の参加を得た。

和太鼓演奏、空手、剣道、居合道、合気道、柔道などの武道デモンストレーション、盆踊り、書道や折り紙ワークショップ、コスプレ・ファッション・ショー、着付けデモンストレーション、鎧試着などを実施。また、JETAA(MidSouth)支部と協力し、一般市民が日本の伝統的な玩具に実際に触れる機会を創出する他、日本の昔話の紹介、JETプログラムの広報及び各種広報資料の配布も実施した。

共催者はじめ、ニューオーリンズ日本協会や日本庭園協会等の親日的組織が一丸となり、一人でも多くの市民に日本文化に触れる機会を設け、親日感を醸成するという目標のために時間と協力を惜しまず、また、日本語補習校の保護者もテント出展参加。日米両国のコミュニティが交流する機会となると同時に、参加者にとっては、伝統文化からポップカルチャー、武道のパフォーマンス、太鼓の演奏、NOMA内の日本ギャラリーツアー及び隣接する市立公園敷地内に所在する日本庭園のガイドツアー、盆踊り等、日本文化の多様な側面に触れ、体験することができると同時に、ニューオーリンズ風にアレンジされた日本の屋台の食べ物を満喫する機会となった。



## ⑥メンフィス・ロータリー・クラブにおける講演(ナッシュビル総領事館)

- 実施時期 2017年11月7日
- 実施場所 テネシー州メンフィス市
- 関係機関 メンフィス・ロータリー・クラブ
- 訴求対象 メンフィス市長、ロータリー・メンバー、企業関係者他
- 開催規模 約200名
- 概要・効果

キング牧師暗殺事件につながる歴史的教会を会場として、メンフィス市長を始めとする来賓及びロータリー・クラブ会員計約200名の聴衆に対し、「日米関係とテネシー：過去・現在・将来」と題する講演を行った。日米関係の概要及び歴史をテネシー州出身者(アンドリュー・ジャクソン元大統領、コーデル・ハル元国務長官)の役割等に言及しつつ説明。また、1980年代に日本の製造業が戦略的に米国への進出を図った際に、アレクサンダー知事の尽力で日産が初めてナッシュビル郊外に工場を開設し、これが現在の日・テネシー関係を築く礎となったことを紹介しつつ説明。

現在は、約190社の日系企業がテネシーに進出し、5万人もの直接雇用と大きな経済的・社会的貢献をしていること、メンフィス地域でも53社が7,500人の雇用をもたらしているが、メンフィスでは自動車産業に加え、多様な企業がビジネスを展開しているという特徴を説明。日米関係の将来は大きな可能性があるが、日・テネシー関係においては、ハワード・ベーカー元大使、アレクサンダー連邦上院議員や現ハズラム知事の役割は極めて大きなものがあり、ハガティ新駐日大使もテネシー出身で、このような人々の作ってきた過去、現在を将来につなげていくことが重要であり、大きな可能性を秘めている旨強調した。

講演の一部がNBC系テレビニュース(夕刻)で放送された他、「メンフィス・ビジネス・ジャーナル紙」でも報道された。講演の2日前に、総領事による投稿記事がメンフィス地域における主要紙である「メンフィス・コマーシャル・アピール紙」に掲載されたことも重なり、一般市民にもテネシー州における日米関係について広く発信を行う機会となった。



## ⑥1 管轄地域内の「桜祭り」支援(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2017年4月9日ほか

■実施場所 ペンシルバニア州フィラデルフィア市フェアマウント公園内他

■関係機関 フィラデルフィア日米協会ほか

■訴求対象 一般市民

■開催規模 1万5千人ほか

### ■概要・効果

管轄地域内にて行われる桜祭りに対して、NY総領事・大使をはじめとする館員の出席による支援及び在外公館文化事業(共催)としての支援等を実施。

フィラデルフィア市における桜祭り(右写真)では同市長が自ら子供向けに紙芝居を実施したほか、NY市内ブルックリン植物園における桜祭り(同植物園主催)は2日間で合計約8万1千人が参加。

各行事とも、規模に差はあるも、地元に着した日本文化等発信イベントとなっている。



## ⑥2 ストーニーブルック校日本エッセイコンテスト(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2017年4月22日(表彰式)
- 実施場所 ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校日本センター
- 関係機関 同校日本センター、キヤノンUSA
- 訴求対象 一般市民(高校生、大学生)
- 開催規模 応募作品220点
- 概要・効果



2005年から開催し今年で12回目。ストーニーブルック校日本センターと、同地近郊に本社を置くキヤノンUSAが実施。毎年、日本文学やアニメなどの日本文化体験、日本への旅行や日本人との交流などを題材に英語でエッセイを募集し、毎年多数の応募がある。キヤノンUSAが賞金・賞品を提供。キヤノンUSA及び総領事は名誉審査員。入賞者を対象に総領事公邸にて昼食会を開催。NY州ロングアイランドにおける日本への理解・関心を高め、日系企業の草の根活動を支援。

## ⑥3 Japan Day @ Central Park(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2017年5月14日
- 実施場所 ニューヨーク市セントラルパーク内
- 関係機関 Japan Day Inc.
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約6万人
- 概要・効果



日本文化の紹介、ニューヨーク市への感謝の表明、在留邦人や日系米国人等の草の根交流・連帯強化という目的で2007年から毎年実施。Japan Run(6.4kmのランニングレース)とJapan Day Festivalによって構成。同Festivalでは日本に関連するステージパフォーマンスを行うほか、会場内にアクティビティテント(日本文化紹介、日本の技術紹介など)及びフードテント(お好み焼き、おにぎり等試食)を設置。当地最大規模の日本文化紹介・発信イベントとして定着。

## ⑥4 NY州政府・州議会へのPR(ニューヨーク総領事館)

- 実施時期 2017年6月11日～13日(3日間)
- 実施場所 オルバニー(NY州州都)
- 関係機関 カワサキレールカー、日立、清水建設、三菱商事等日系企業13社
- 訴求対象 NY州政府幹部、NY州上下両院議長・議員
- 開催規模 約140名
- 概要・効果

NY州副知事、NY州上下両院議長等の要路を日系企業幹部と共に個別に訪問(写真上)すると共に、両院の議場をそれぞれ訪問し、日系企業全体のこれまでのNY州での雇用及び投資といった経済的な貢献を全体的にPR。更に、日系企業幹部とNY州議会議員等を招いたレセプションを開催(写真下)し、各社による具体的な地域への経済的貢献をPR、各議員にこれまでの貢献を再確認させ、感謝の意が示されたと共に、引き続きの関係深化を求める声が相次いだ。



## ⑥5 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2017年10月3日～6日(4日間)

■実施場所 ①ニューヨーク州バッファロー  
②ニュージャージー州イーストオレンジ  
③ニュージャージー州プリンストン  
④ニューヨーク州ニューヨーク市  
⑤ニューヨーク州ウェストチェスター郡

■関係機関 官邸国際広報室  
①バッファロー歴史協会、シティオーナーズ高校  
②シートンホール大学  
③プリンストン大学  
④タウンゼンドハリス高校  
⑤マーシー大学

■訴求対象 一般市民、高校生、大学生

■開催規模 約20～110名

### ■概要・効果

「歩こうアメリカ、語ろうニッポン」事業で訪米中の谷口内閣官房参与ほかによる講演会。政治・外交といった普段の生活からは距離のある話題ではなく、多くの一般市民が親しみを持てる話題を通じて、日本の魅力の発信、日米関係の重要性等を発信することで、対日理解の促進、親日感の醸成に大きく寄与した。当館は、講演受け入れ機関のアレンジ及び広報等の面で協力。



## ⑥ 日本語教師会会合(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2017年10月29日

■実施場所 ペンシルバニア州ハヴァフォード

■関係機関 ハヴァフォード大学

■訴求対象 デラウェアバレー周辺(ペンシルバニア、ニュージャージー、デラウェア各州)に所在する大学の日本語教師

■開催規模 25名

■概要・効果

### 【概要】

ニューヨーク総領事館広報センター所長による、ニューヨーク総領事館業務及び日米交流の現状についての講演。

### 【効果】

当地における当館の役割、日米関係について説明することを通じ、日本紹介を行うに際しては当館がバックアップする用意があることを伝えるとともに、当館関係者による各大学での講演会実施に向けた下地作りを行うことができた。



## ⑥7カケハシプロジェクト(派遣事業)(ニューヨーク総領事館)

■実施時期 2017年11月2日、9日、14日

■実施場所 ニューヨーク総領事館

■関係機関 JICE

■訴求対象 カケハシプロジェクトで訪米中の高校生  
(神奈川県立弥栄高校、埼玉県立和光国際高校)

■開催規模 計75名

### ■概要・効果

カケハシプロジェクトで訪米中の我が国高校生に対し、当館広報センター員より当館業務を説明するとともに、日系企業の当地における雇用創出といった貢献、日米の政治・外交・経済面でのつながりの重要性を説明。

併せて、米国とはどのような国かを講演することを通じ、滞在期間中に同高校生らが米国人高校生とどのような関係を築くか、米国の高校生と交流する際の留意点等について参考となる情報を提供することで、我が国の若い世代を代表する「高校生大使・外交官」としての自覚を身につけさせ、米国の同世代の若者に対し親日感を醸成する一助となった。

(写真は11月14日の学生による報告会のもの)



## ⑥8 アニメ祭り発起人に対する在外公館長表彰(ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2017年4月7日
- 実施場所 アニメ祭りオープニングセレモニー  
(於: ジョージ・ブラウン・コンベンションセンター)
- 関係機関 アニメ祭り実行委員会
- 訴求対象 一般市民、ヒューストン市関係者
- 開催規模 5万人以上
- 概要・効果



### 【概要】

総領事がアニメ祭りオープニングセレモニーに招待された機会を捉え、同祭りの発起人・会長であるジョン・レイ、デニス・レイ夫妻の功績をたたえるため、在外公館長表彰を実施。

### 【効果】

今年で11回目を数える同祭りは日本の総合的なアニメの祭典として、ヒューストンのみならず全米各州からも参加者があり、参加者数の伸び率は北米で最も高く、急激に成長。日本のポップカルチャーをヒューストン、テキサスだけではなく、全米に強く発信できる催しともなっている。また、本年は、ターナー・ヒューストン市長が、リボンカッティングセレモニーに参加、本イベント開催日を「セーラームーンの日」と認定するなど、ヒューストン市からの関心も強まった。

## ⑥9 日本庭園開園25周年記念式典(ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2017年5月2日
- 実施場所 ハーマンパーク内日本庭園
- 関係機関 ハーマンパーク管理事務所、ヒューストン市
- 訴求対象 ヒューストン市関係者、日米交流関係者
- 開催規模 約150名

### ■概要・効果

#### 【概要】

日米両国民の友好・友情のシンボルとの位置付けの下、ヒューストン市及び日系コミュニティーの協力を得て開園した日本庭園が25周年を迎える機会を捉え、冠木門と枯山水の建設が進められ、これらの完成と開園25周年を記念して今回の式典が開催。

#### 【効果】

クリスティー・ヒューストン市議会議員(急用により欠席となったターナー・ヒューストン市長の代理出席)から、日米友好の証である日本庭園が25周年の節目を迎えたことを嬉しく思うとともに、関係各位に感謝する旨の挨拶があり、本年5月1日から7日を日本庭園ウィークとする旨のターナー市長による宣言書が総領事に手交。ヒューストン市が所有・管理している公園の中で国の名前を冠した施設を設けているのは、日本のみ。ヒューストン市が同庭園を日本との友好のシンボルとして重視していることや日米友好関係を再確認する機会となった。



## ⑦0 千葉市・ヒューストン市姉妹都市提携45周年記念答礼レセプション (ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2017年10月11日
- 実施場所 ヒューストン市役所内レガシーホール
- 関係機関 千葉市
- 訴求対象 ヒューストン市関係者、日米交流関係者
- 開催規模 約120名

### ■概要・効果

#### 【概要】

10月9日から12日まで、熊谷千葉市長を団長とする千葉市公式訪問団がヒューストン市との姉妹都市提携45周年を記念して当地を訪問。訪問の締めくくりとして、また、関係者間の意見交換促進のため、当館と同市共催でレセプションを開催。熊谷市長から、千葉市の魅力、国家戦略特区としての活動状況、2020オリンピック・パラリンピックなどを紹介。

#### 【効果】

今次訪問では、ハリケーン後の復旧段階にあるヒューストン市に対し、千葉市からのお見舞い金やメッセージの寄せ書きを熊谷市長からターナー市長に直接手交し、更には、青少年交流の受入校を訪問するなど姉妹都市関係における強い絆を確認できた。また、レセプションには姉妹都市交流に関わった関係者が一堂に会し、姉妹都市交流に関して意見交換をするなど、今後の更なる関係強化に向けた良い機会となった。



## ⑦1 日本人バレエダンサーに対する在外公館長表彰(ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2017年11月2日
- 実施場所 ハーマンパーク内ミラーアウトドアシアター
- 関係機関 特になし
- 訴求対象 一般市民
- 開催規模 約200名
- 概要・効果



### 【概要】

ヒューストンバレエの一員として活躍する傍ら、東日本大震災チャリティ公演のプロデュースや日本の昔話である「鶴の恩返し」をベースとした全幕創作バレエ作品「Tsuru」への出演、ヒューストン市・千葉市姉妹都市提携45周年記念公演などを実施したバレエダンサーの楠崎なお氏に対し、ハリケーン・ハービーの影響で延期となっていた「Tsuru」公演が行われた機会を捉え、公演終了後のカーテンコールの中、総領事がステージ上において、楠崎氏の功績について述べおいた後、楠崎氏に在外公館長表彰状を手交。

### 【効果】

同氏の活躍により、当地の人々の日本に対する理解と関心が大きく高められたこと、及び姉妹都市交流を初めとした草の根レベルの日米友好関係が強化されており、今回の表彰においても、会場から大きな拍手が沸き上がり、ヒューストン市民も楠崎氏の功績を讃えた。

## ⑦2 ヒューストン日本商工会創立50周年記念行事(ヒューストン総領事館)

- 実施時期 2017年11月11日
- 実施場所 ヒューストン大学内ヒルトンホテルレセプションホール
- 関係機関 ヒューストン日本商工会
- 訴求対象 ヒューストンの地元政財界要人、日米交流関係者
- 開催規模 約200名

### ■概要・効果

#### 【概要】

地元への謝意表明を目的として開催されたヒューストン日本商工会創立50周年記念レセプションにおいて総領事の祝辞後、同会の功績を評するとして、同会会長に在外公館長表彰状を手交。その足取り等についても紹介、日本企業のプレゼンスの重要性と今後の更なる関係強化への期待を出席者が共有。なお、当館館員は、実行委員の一人として準備過程から協力。

#### 【効果】

同レセプションにはターナー・ヒューストン市長をはじめ地元政財界等の要人等が出席、また、NYを拠点に活躍するバイオリニスト五嶋龍氏と地元音楽家との共演となったコンサートも開催、売り上げをヒューストン大学に寄付。さらに、今夏のハリケーンハービーによる被害に対し同商工会が拠出した義援金10万ドル、本件イベントの機会にあわせて、災害に強い街作りへの研究支援のための基金10万ドル拠出を受け、地元関係者が同会の重要性を認識する貴重な機会となった。また、日本政府と経済関係者が連携して地元関係者との関係促進を行っていることをアピールする機会ともなった。



## ⑦3 在日米軍経験者とのネットワーク構築強化事業(ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年3月25日
- 実施場所 ボストン総領事公邸
- 関係機関 米海軍大学
- 訴求対象 在日米軍経験者(含むトモダチ作戦参加軍人)
- 開催規模 75名
- 概要・効果

在日米軍経験者の陸海空の米軍幹部候補生が多数在籍する米海軍大学の協力を得て、ネットワーク構築強化事業を実施。ジェフリー・ハーレー海軍少将・米海軍大学校長、知日派として知られるジェームズ・ケリー海軍少将・元在日米軍海軍司令官他を来賓に迎え、米海軍大学に在籍する米軍幹部候補生及び家族と本官及び当館館員との交流を深めた。当地フレッチャースクールに留学中の防衛省及び海上幕僚監部幹部候補生も参加。イベントでは東日本大震災後にトモダチ作戦に参加した軍属がスピーチし、同作戦は日本勤務時の最も過酷な任務であったが、自衛隊との共同行動を通じ、最も日米同盟の絆の強固さを実感したと述べた。

米原子力空母ジョージ・ワシントンの横須賀入港の実現、在日米軍と横須賀市の災害時救援活動覚書締結等、多数の功績と傑出したリーダーシップを讃えられ、離日時に外務大臣から感謝状を送られたジェームズ・ケリー海軍少将・元在日米軍海軍司令官。現在も日本の和紙で作った名刺を使い、日本語で「ジェイミー・ケリー」と刷り込んでいる。

日本勤務時の経験は楽しいものばかりでなく、在日米海軍軍属が日本人を傷つける事故を起こした、ケリー司令官にとり辛く胸が痛む事件も。それらを乗り越え日本における在日米軍の信頼を高めるため努力した経験を語るケリー少将。



## ⑦4 ボストン日本祭り(ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年4月30日
- 実施場所 ボストン市・ボストンコモン
- 関係機関 ボストン日本祭り実行委員会、ボストン日本商業会、ボストン日本人会、ボストン日本協会、昭和ボストン、ニューイングランドJET同窓会米海軍大学
- 訴求対象 ボストン周辺の一一般市民
- 開催規模 のべ約6万人
- 概要・効果

日本からアメリカへのさくら寄贈100周年にあたる2012年に開始され、毎年ボストン市内で実施されている日本祭り。開始6年目を迎えて着実にボストン市民の間で定着してきており、2017年には日本食その他のブース100以上の出展に加え、大小2つのステージでは雅楽のパフォーマンスやコスプレコンテスト、ワークショップコーナーでは茶道、書道や折り紙などの紹介などが行われ、来場者約6万人を集めるなど、ニューイングランド最大規模の日本祭りとなった。

総領事館は共催者として会場費等の一部負担するほか、ワークショップコーナーの運営を担当しパフォーマーとの調整や、風呂敷の使い方に関するデモンストレーションなどを行った。

ボストン市の中心にあるボストンコモンにおいて大規模な日本祭りを開催することで、知日層のみならず当地一般市民に広く日本文化を紹介する大きな機会となっている。また、イベントに向けた準備過程においては、日本人、米国人双方を含めた当地日本関連コミュニティが一致団結し、友好関係を高める効果があった。



## ⑦5 ニューポート黒船祭り(ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年7月14日～16日(3日間)
- 実施場所 ニューポート市内各所
- 関係機関 ロードアイランド州日米協会
- 訴求対象 ロードアイランド州及びボストン周辺の一般市民
- 開催規模 のべ約1万人
- 概要・効果

「黒船艦隊」を率いて江戸湾に来航したペリー提督の出身地であるロードアイランド州ニューポート市において、同提督の偉業とその後の日米交流を祝うために1984年以降毎年夏に実施されているイベントで、今年第34回目となった。

市内中心部において大太鼓演奏等の日本伝統楽器による演奏、日本伝統武道のデモンストレーション、折り紙・書道ワークショップ、茶道・生花デモンストレーション等の多彩な事業やロードアイランド州日米協会主催のガラ・ディナーが開催され、総領事館は一般市民が多く訪れる「the Arts and Craft Fair」における日本文化紹介を共催した。

黒船と縁のある下田市(ニューポート市と姉妹都市)及び函館市から両市町を団長とする訪問団が出席した他、今年本イベントに合わせて自衛隊練習艦隊がニューポートに寄港し、音楽隊による演奏や、関係者約200名を招いた艦上レセプションが実施され、友好ムードを盛り上げた。



## ⑦日米大学野球(ボストン総領事館)

■実施時期 2017年7月12日～17日(6日間)

■実施場所 マサチューセッツ州、ニューハンプシャー州、コネチカット州各地

■関係機関 US Baseball、Future Collegiate Baseball League of New England、全日本大学野球連盟

■訴求対象 ニューイングランド周辺の一般市民

■開催規模 のべ約3千人

### ■概要・効果

隔年で開催されている日米大学野球選手権大会がニューイングランド地域(マサチューセッツ州、ニューハンプシャー州及びコネチカット州)にて実施された。

総領事館はホームページ等を通じた当地市民及び邦人に対する案内、国歌斉唱を行った当地在住歌手の実施団体への紹介などを実施したほか、本拠となったウースター大学スタジアムでの試合では総領事が始球式を行い、スポーツを通じた日米友好親善をアピールした。



## ⑦ ジョン万次郎祭り(ボストン総領事館)

■実施時期 2017年10月7日

■実施場所 フェアヘブン市内各所

■関係機関 万次郎ホイットフィールド友好協会

■訴求対象 フェアヘブン/ニューベッドフォード市及びボストン周辺の一般市民

■開催規模 のべ約4千人

### ■概要・効果

日本人として初めて米国に居住したジョン万次郎と同人を支援したホイットフィールド船長の交流を記念し、土佐清水市(ジョン万次郎の故郷でフェアヘブン・ニューベッドフォード市と姉妹都市)と隔年で開催されている行事で、総領事館と共催で市内各所で茶道、生け花、和太鼓や尺八等のデモンストレーションなどが行われた。

本年は土佐清水・フェアヘブン/ニューベッドフォード姉妹都市提携30周年にあたり、今次万次郎フェスティバルに参加するため、泥谷市長を団長とする土佐清水使節団が来訪したほか、万次郎が帰国時に上陸した縁のある沖縄・万次郎友好協会が日本からフェアヘブンを訪問した。

フェスティバル翌日にニューベッドフォード捕鯨博物館において開催された友好晩餐会(万次郎ホイットフィールド友好協会主催)の場では、同捕鯨博物館と土佐清水市ジョン万次郎資料館との間の協力協定が署名された。



## ⑦⑧ ノースイースタン大学における総領事講義(ボストン総領事館)

■実施時期 2017年10月12日

■実施場所 ノースイースタン大学

■関係機関 ノースイースタン大学ワールドランゲージセンター日本語プログラム

■訴求対象 ノースイースタン大学日本語クラス受講学生

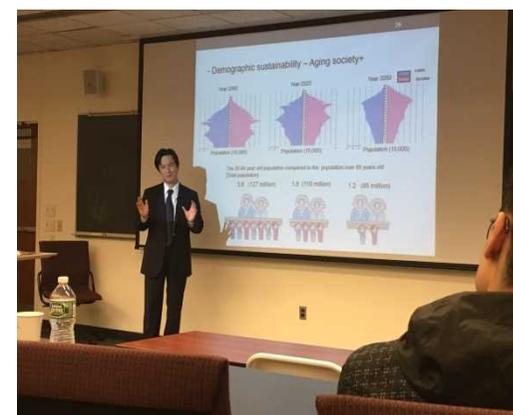
■開催規模 約50名

### ■概要・効果

総領事が「Japan Now: Our Challenges, Our Opportunities, and Our Future」と題する講義を行い、日本社会・経済の現状、課題、強み等について講義を実施した。

質疑応答では、日本の政治・経済、高齢化、交通インフラ、エネルギー政策、日米関係、安全保障上の課題について、多数の質問がなされた。

日本に関心を持つ学生に対して、総領事自らが日本の現状や課題を具体的データや事例を用いて説明したことで、学生達の現在の日本に対する理解を深めることができた。



## ⑦9 Japan Innovation Night(ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年11月2日
- 実施場所 ケンブリッジ・イノベーション・センター(CIC)
- 関係機関 CIC、CICベンチャーカフェ、日本貿易振興機構(ジェトロ)
- 訴求対象 ボストン周辺の起業およびイノベーション・コミュニティー関係者(ベンチャー企業、起業家、大企業、起業支援組織関係者、個人投資家、ベンチャーキャピタル、コンサルタント等)
- 開催規模 678名
- 概要・効果

ボストンの起業支援システム(エコシステム)の中心地CICにて日本のイノベーションの現状を紹介するイベントを開催(CICベンチャーカフェ主催、当館協力)。

イベントでは、①ミレニアム世代による日本のイノベーション紹介、②女性社会起業家による日本の現状発表、③ボストン進出日系大企業4社によるパネル・ディスカッション(ボストン周辺ベンチャー企業に何を求めるか)を実施。併催したネットワーキングでは、日系ベンチャー企業によるデモテーブル、ジェトロによる対日投資促進情報テーブルを設置。ボストン総領事館はパネリスト選定への協力、事前広報、総領事によるパネルおよびネットワーキングでの冒頭挨拶等を行った。

予想を遙かに上回る678名が参加。日本のイノベーションについて広く知ってもらうことができた。また、パネル・ディスカッションに参加した日系企業には、パネル後、ベンチャー企業やコンサルタント等からコンタクトが相次ぎ、将来的なビジネス連携につながるものとなった。



## ⑧ The Japan-US Science Forum in Boston (ボストン総領事館)

- 実施時期 2017年11月18日
- 実施場所 ハーバード大学
- 関係機関 日本学術振興会(JSPS)(共催)、ハーバード大学ライシャワー日本研究所、Branchfood、海外日本人研究者ネットワーク(UJA)(後援)
- 訴求対象 ボストン周辺の科学技術分野研究者、ライフサイエンス産業関係者、食品等企業関係者等
- 開催規模 約150名
- 概要・効果

学術都市ボストンと日本のアカデミアの交流強化および日本の科学技術力の発信のために2016年度から開催。2016年度は少子高齢化、2017年度は食をテーマとした。

冒頭、総領事、平田JSPSワシントン連絡センター長、JSPSとゆかりのあるエリオット・ハーバード大学副学長、ヘンシュ同大学教授が挨拶し、オオエMIT教授の司会のもとで、ベスター・ハーバード大学ライシャワー日本研究所所長、アダモウイクス・EchoCEO、山下キャノングローバル研究所研究主幹、イスラム・ワイオミング大学准教授、村井コーネル大学助教の和食・肥満・食品包装・農業などの食に関連する多角的な講演が行われた。パネル・ディスカッションではオオエ教授がモデレーターとなり、石井MIT教授、バークマン・タフツ大学フレッチャー校教授、エステップ・ヴェリタス・ジェネティクスCSO、パウエル・ウッズホール海洋研究所リサーチ・スペシャリスト、アブダ・ブランチフード創設者及び総領事が食の政策的課題について産業界・学術界・科学技術外交・デザイン等それぞれの専門分野の視点から議論を行った。

参加者はドイル・ハーバード大学教授などの研究者、企業関係者など日米の約150人。総領事館はJSPSとイベントを共催し、ボストン周辺の講演者の選定、参加者の広報等主体的に運営に携わった。



## ⑧1 Kawaii Konにおける日本紹介(ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年4月7日～9日(3日間)
- 実施場所 ハワイ・コンベンションセンター
- 関係機関 Kawaii Kon実行委員会
- 訴求対象 アニメ・漫画 愛好家
- 開催規模 1千名(全体の来場者数は1万人以上)
- 概要・効果



ハワイ州最大のアニメ関連イベント「カワイイ・コン」に総領事館ブースを設置、来場者の日本に関する様々な質問に対応した。参加者からは、日本へ旅行に行ってみたいのだが、どのようなプランがいいか、日本語・茶道に興味があるのだけれど、どこで習えるか等、多様な問い合わせがあり、ひとつひとつ丁寧に対応したことに対し、感謝され、対日理解の促進・訪日意欲の喚起につながる事業だった。若年層・青年層へのアウトリーチも強化する機会となった。

## ⑧2 ボーイスカウト・メンバーによる総領事館訪問(ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年8月4日
- 実施場所 ホノルル総領事公邸
- 関係機関 ボーイスカウト・オブ・アメリカ・アロハ支部
- 訴求対象 小・中・高校生のボーイスカウト少年
- 開催規模 60名
- 概要・効果



在日米軍勤務経験者が幹部として関わっている当地のボーイスカウトグループを招き、日本にまつわるクイズ、JNTO観光ビデオ上映、紙芝居、総領事館の役割や日ハワイ関係についてのプレゼンテーションを行った。若年層・青年層への対日関心・訪日意欲の喚起につながり、今後もこのような地域コミュニティーとの連携を強化できる取組を行っていく。

### ⑧3 山形県産米「つや姫」・山形牛・山形日本酒PRレセプション(ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年11月3日
- 実施場所 ホノルル総領事公邸
- 関係機関 山形県
- 訴求対象 バイヤー、レストラン、お弁当等販売業
- 開催規模 95名
- 概要・効果



当地の食品関係者約60名を招待し、「つや姫」、山形牛、山形県産日本酒についてのプレゼンテーションを山形県の生産者及び山形県庁担当者が行い、それらを使ったメニューを含むランチ・バフェの提供を行った。併せて山形県の伝統工芸品及び木製家具の展示と山形県の観光DVDの上映を行った。また、花笠音頭を参加者と共に踊り、和やかな演出となった。つや姫のカリフォルニア米との違いを良く理解してもらえた。山形牛への関心が寄せられた。

### ⑧4 JETROサービス産業ミッション・ネットワーキング・レセプション(ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年11月6日
- 実施場所 ホノルル総領事公邸
- 関係機関 JETRO LA、JETRO本部
- 訴求対象 当地のビジネスパートナー
- 開催規模 40名
- 概要・効果



飲食及びITの日本企業8社が訪れ、ホノルルにおけるビジネス環境について調査・視察を行った。セミナーの際に館員もプレゼンを行い、また、ビジネスパートナーとなり得る弁護士、会計士、コンサルタント、銀行関係者、人材派遣業者、不動産業者、日本人商工会議所関係者及び州政府ビジネス関係部局の関係者を招いてネットワーキングのためのレセプションを開催。当地のビジネス環境を熟知する最前線の専門家の意見を直に聞くことが出来たとして、参加企業から好評を得た。70

## ⑧⑤ 広島ハワイ次世代ビジネスリーダー・プログラム歓迎レセプション(ホノルル総領事館)

- 実施時期 2017年11月13日
- 実施場所 ホノルル総領事公邸
- 関係機関 ホノルル日本人商工会議所、広島県
- 訴求対象 広島とハワイの次世代ビジネスリーダー
- 開催規模 36名
- 概要・効果

### 【概要】

友好都市であるハワイと広島の次世代ビジネスリーダー各10名がハワイで交流し、共にビジネス・リーダーシップ研修を受けた。

### 【効果】

右交流を支援するため、総領事館がホノルル日本人商工会議所と共催で歓迎レセプションを開催。両者の絆を深めるのに貢献した。



## ⑧6 在日米軍経験者とのネットワーク構築・強化事業(JUMP) (マイアミ総領事館)

■実施時期 2017年6月13日

■実施場所 フロリダ州ジャクソンビル市米国海軍航空基地内レストラン

■関係機関 米国海軍第4艦隊

■訴求対象 在日米軍駐在経験者、州政府高官、州議会議員等

■開催規模 170名

### ■概要・効果

総領事から在日米軍駐在経験者に対して「在日米軍経験者は日米同盟の基盤の一つとして極めて重要であり、日米友好の証である。」ことを伝えるとともに、日本に対する印象や日本の思い出話等を聴取することに努めた。

多くの参加者は、本事業が日本勤務の経験を思い出し、日米関係の重要性を再認識する大変有意義な機会であったと評価し、謝意を述べた。

なお、レセプション会場に日本酒試飲カウンターを設けたところ、日本に駐在歴のある者にとって日本酒は身近なものであることを確認できた。



## ⑧7 ビリラキス下院議員主催のパスコ郡商工会メンバーとの意見交換(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年7月17日
- 実施場所 フロリダ州パスコ郡ウェズリー・チャペル
- 関係機関 パスコ郡商工会
- 訴求対象 ビリラキス連邦下院議員(共、12区)、パスコ郡商工会等ビジネス関係者
- 開催規模 28名
- 概要・効果

ビリラキス連邦下院議員がフロリダ州中央西部の地元選挙区で開催したパスコ郡商工会との会合に、総領事が出席し、日米・フロリダ州経済関係、日本企業の投資誘致、インフラビジネス参画、日本の投資環境等につき、ブリーフ及び意見交換を行い、対日理解の促進を図った。

また、具体的な対日進出を計画するIT企業を、会合後JETROアトランタ事務所に紹介した。

## ⑧8 タンパ空港向け三菱重工の車両荷揚げ記念式典(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年7月17日
- 実施場所 フロリダ州タンパ港(タンパ市)
- 関係機関 三菱重工、タンパ港湾局、タンパ国際空港等
- 訴求対象 実施場所周辺の政治家、一般市民等
- 開催規模 約200名
- 概要・効果

三菱重工がタンパ国際空港に供与する鉄道車両の陸揚げ式典が開催され、フロリダ州知事等とともに総領事が挨拶を行った。

事後広報として、地元紙に対して同趣旨の投書を行い、オンライン記事及び紙面への掲載を実現した。当館フェイスブックでも同趣旨のメッセージを掲載した。



## ⑧9 海上自衛隊遠洋練習航海エバーグレイズ寄港(マイアミ総領事館)

■実施時期 2017年7月21日～24日(4日間)

■実施場所 フロリダ州エバーグレイズ港(フォートローダーデール市)

■関係機関 米軍南方司令部等

■訴求対象 地元政治家、地元市民

■開催規模 160名(艦上レセプション)

### ■概要・効果

フォートローダーデール市長を始めとする複数の地元地方議員及び米南方軍外交顧問を始めとする複数のミリタリー高官を招待し、当館主催で入港歓迎式を実施。

地元の手厚い歓迎を受ける様子は地元メディアに取り上げられた。艦上レセプションにおいては、日本食をはじめ日本文化披露(茶道及び書道)及び音楽隊の演奏等日本のプレゼンスをアピールし、日米の友好関係をより強固なものにすることができた。

日米音楽隊合同コンサート(於:森上博物館・日本庭園)及び地元主催レセプション(於:フォートローダーデール・ヨットクラブ)も実施し、草の根レベルの交流・理解も促進。



## ⑨0 エクスぺリエンス・アジア2017における日本文化紹介事業(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年11月5日
- 実施場所 フロリダ州キシミー市レイクフロント公園
- 関係機関 オーランド日本人会
- 訴求対象 地元市民
- 開催規模 約5千名
- 概要・効果



当館ブースを出店し、折り紙や習字コーナー等を設け日本文化紹介を実施、観光資料を含む各種広報資料を用いた日本事情の紹介やJET等の広報も実施。特設ステージでは、津軽三味線、和太鼓、日本舞踊、コスプレコンテスト、居合い抜きのデモンストレーション等各種の日本文化紹介イベントを実施。州最大の日本祭として、17回目を迎え、地元によく受け入れられている。来場者アンケートにて、「日本への関心や理解が深まった」及び「少し深まった」の回答の合計が81%。

## ⑨1 オーランド日本祭(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年10月14日
- 実施場所 フロリダ州タラハシー市 Bloxham & Lewis Parks
- 関係機関 Japanese Community of Tallahassee
- 訴求対象 地元市民
- 開催規模 約1,300名
- 概要・効果



Asian Coalition of Tallahasseeの主催で毎年開催されている「アジア祭」において日本ブースを出展し、日本語による名前書き、七夕飾り作成、浴衣の試着、御輿の展示、日本関連資料の展示・配布、折り紙のデモンストレーション・展示等による日本文化紹介。特設舞台においては、和太鼓及び尺八奏者による演奏を披露するほか、盆踊り、よさこいソーラン節の実演。アジアの中の日本としての存在をアピールすると同時に、対日理解の更なる促進を図った。

## ⑨2 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(マイアミ総領事館)

- 実施時期 2017年11月26日～29日(4日間)
- 実施場所 フロリダ州タンパ市及びペンサコーラ市
- 関係機関 官邸国際広報室、南フロリダ大学、西フロリダ大学等
- 訴求対象 大学生を始めとする地元市民、軍関係者等
- 開催規模 計300名

### ■概要・効果

#### 【概要】

タンパ市においては、タンパベイタイムズ編集長との意見交換会、タンパ商工会及び市長との意見交換・昼食会、南フロリダ大学での3回の講演、米軍関係者・大学関係者との意見交換・夕食会を実施。ペンサコーラ市においては、市長との懇談会、西フロリダ大学での講演、Sasakawa USA及び日米協会との共催で、軍関係者を主対象とした講演・レセプションを実施。

#### 【効果】

いずれも、日本の強み・魅力をアピールし、草の根レベルの日米交流を図った。



### ⑨3 第28回アリゾナ日本語弁論大会(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年4月9日
- 実施場所 アリゾナ州スコッツデール サワロー高校
- 関係機関 アリゾナ州日本語教授会、国際交流基金
- 訴求対象 日本語履修学生、生徒家族・友人、日本語教師
- 開催規模 約150名
- 概要・効果

日本語を母国語としない高校生、大学生による日本語スピーチコンテストをアリゾナ州日本語教授会と共催。過去の成績優秀者には世界で著名なギタリスト(元メガデスのマーティ・フリードマン)がおり、日本語学習者以外にもイベントの名が知られている。

アリゾナ州の日本語履修学生の日本語能力向上を図るとともに、在留邦人、日系人の少ない同地における日本語普及促進及び親日家の育成を図る。



### ⑨4 在日米軍経験者レセプション(沖縄県本土復帰45周年記念)(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年5月12日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 米軍関係機関、沖縄県人会
- 訴求対象 在日米軍経験者及びその家族、沖縄県人会関係者
- 開催規模 約90名
- 概要・効果

日本との友好親善の促進。沖縄本土復帰に係る展示物や琉球祭り太鼓の披露、沖縄料理及び郷土酒の提供を通じ、対日理解を深める。



## ⑨5 ロサンゼルス交響楽団ファンドレイジング・イベントへの協力(ロサンゼルス総領事館)

■実施時期 2017年6月2日

■実施場所 市内ミュージックセンター内ドロシー・チャンドラー・パビリオン

■関係機関 ロサンゼルス交響楽団支援国際委員会

■訴求対象 当地日米企業関係者、文化芸術関係者、LAフィル関係者他

■開催規模 300名

### ■概要・効果

LAフィルを支える篤志家などが集まるLAフィルボランティア組織の一つである国際委員会が毎年ある国をテーマとしてその国の総領事館の協力を得て開催。第65回を数える今年は日本がテーマであり、日本の多様な魅力をアピールするために当館が協力することとしたもの。当地の富裕層等に対し、日系人による室内楽演奏や、米国人による尺八演奏、琉球舞踊のパフォーマンスの他、オリンピック等についてのビデオ上映など、日本の伝統文化及び現代性を広く広報することができた。



## ⑨6 焼酎PRイベント(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年8月3日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 ジェトロロサンゼルス
- 訴求対象 当地レストラン関係者、メディア等
- 開催規模 200名
- 概要・効果



これまで焼酎になじみのなかったゲストに美味しい飲み方や料理との組み合わせを紹介することができ、自分の店で扱いたいと商談を進めるレストラン関係者も少なくなく、出展者、ゲスト双方にとって良い機会となった。本イベントについては、翌日のNHKニュースの他、当地情報誌においても数多く報じられた。

## ⑨7 LA七夕フェスティバルの開催(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年8月18日～22日(5日間)
- 実施場所 リトル・トーキョー地区
- 関係機関 LA七夕フェスティバル実行委員会
- 訴求対象 地域コミュニティ、地元自治体、地域選出議員等
- 開催規模 約150団体
- 概要・効果



当地最大の日系人による祭典である二世週祭に合わせて実施された。当館も館員が制作したKAZARIを出展したほか、総領事が名誉委員長に就任し、表彰式に参加。

本年で9回目となるが、南カリフォルニアの各種日系団体や日系企業のほか、ロサンゼルス市役所、地元選出議員事務所、地元小学校等がKAZARIコンテストに出展するなど、地域に定着したイベントとなっている。



## ⑨8 在日米軍経験者レセプション(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年9月7日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 米軍関係者・退役軍人関係団体
- 訴求対象 在日米軍経験者及びその家族
- 開催規模 約130名
- 概要・効果

日本との友好親善の促進。家族とともに日本文化プログラムや日本食・日本酒を楽しみ対日理解を一層深めた。



## ⑨9 米国ユダヤ協会(AJC)若手リーダーとの夕食会(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年9月18日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 米国ユダヤ協会の若手会員団体(ACCESS)
- 訴求対象 米国ユダヤ協会会員ら
- 開催規模 40名
- 概要・効果

当地ユダヤ系団体である米国ユダヤ協会(AJC)の当地で活躍する25~40歳の若手リーダーら35名を迎え、総領事が、日本とユダヤ人との繋がり、日米関係、領土問題等について講演を行った。

多くの参加者が日本に深く興味を抱いており、質疑応答コーナーでも多くの質問がなされるなど、有意義な講演会及びイベントとなった。



## 100 JETプログラム帰国歓迎レセプション(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月12日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 JETプログラム南カリフォルニア & アリゾナ同窓会
- 訴求対象 JETプログラム帰国者、企業関係者等
- 開催規模 70名
- 概要・効果

JETプログラムから帰国後の米国人青年の日本とのつながりを奨励するとともに、当地での日本関連コミュニティにおける人脈構築を支援。



## 101 福島県知事による復興セミナー(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月18日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 福島県
- 訴求対象 ロサンゼルス郡及びロサンゼルス市震災担当者等
- 開催規模 100名
- 概要・効果

南カリフォルニアにはサンアンドレアス断層があり、大地震の発生可能性が高いと言われていることから震災復興は非常に関心の高いテーマであり、当地震災関係当局や被災経験エリアの議員、企業等、幅広い分野からの出席があった。質疑応答においても内堀知事より丁寧な回答がなされ、出席者からも有意義なセミナーだったとの意見を得た。



## 102 サンディエゴ・ティファナ日本協会による在サンディエゴ名誉総領事の表彰 (ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月19日
- 実施場所 サンディエゴ日本友好庭園
- 関係機関 サンディエゴ・ティファナ日本協会
- 訴求対象 企業関係者、有識者、文化芸術関係者等
- 開催規模 70名
- 概要・効果

カリフォルニア州サンディエゴの日本関連コミュニティにおける日米交流ネットワークの強化。メキシコのティファナから在ティファナ名誉総領事も出席。



## 103 歩こうアメリカ、語ろうニッポン(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月23日、24日
- 実施場所 市内南カリフォルニア大学、オレンジ郡カリフォルニア大学アーバイン校
- 関係機関 官邸国際広報室、南カリフォルニア大学大学院・アジアソサエティ  
カリフォルニア大学アーバイン校
- 訴求対象 大学生・大学院生及び教授陣
- 開催規模 約200名
- 概要・効果

「歩こうアメリカ、語ろうニッポン」事業で当地を訪問した大島正太郎元駐韓大使を団長とする同事業団員が、アジアソサエティとの共催により、南カリフォルニア大学で、また、カリフォルニア大学アーバイン校との共催により同大学で講演を行った。アジアソサエティ関係者及び、両大学教授、日本語学習者や日本関連に関心の高い学生・大学院生等に対し、日本の外交政策、高齢化社会での取組、茶道、地方都市への観光誘致等について発信することができた。



## 104 姉妹都市記念イベント(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年10月24日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 姉妹都市関係者
- 訴求対象 姉妹都市活動関係者及び市議会・市関係者
- 開催規模 約100名
- 概要・効果



総領事公邸で開催された姉妹都市友好を記念したレセプションにおいての日本の外交政策、高齢化社会での取組、茶道、地方都市への観光誘致等についての講演と質疑応答を通じ、姉妹都市関係をはじめとするグラスルーツ交流の重要性を発信することができた。

## 105 名古屋及び中部3県の観光誘致促進レセプション(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年11月1日
- 実施場所 総領事公邸
- 関係機関 名古屋市、名古屋ロサンゼルス姉妹都市協会
- 訴求対象 ロサンゼルス米系旅行会社、VIPら
- 開催規模 60名
- 概要・効果

米系旅行会社やVIPを対象とした観光誘致イベント。

外国人にとって馴染みの薄い名古屋の認知度向上を目的とし、名古屋メシや伝統工芸品、侍・城、コスプレといった名古屋の文化を総合的に紹介。

多くのゲストからイベントのプログラムや食事についての賞賛の声があり、米国人観光客誘致拡大に向けて期待の持てる有意義なセミナー及びレセプションとなった。



## 106 日・アルメニア外交関係樹立25周年記念コンサートへの協力(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年11月18日
- 実施場所 ロサンゼルス・シティ・カレッジ
- 関係機関 井上知香氏(日本人サクソ奏者)、全米日本人女子学生協会(AAJUW)
- 訴求対象 アルメニア系米国人、グレンデール市関係者
- 開催規模 150名
- 概要・効果

当地在住の日本人サクソ奏者が、友人であるアルメニア人音楽家と協力してコンサートを実施。

当館は後援名義を行い、総領事挨拶を実施。2名のグレンデール市議会議員も参加。



## 107 ジャパン・ハウス・ロサンゼルス・アップデート・イベント(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年11月28日
- 実施場所 全米日系人博物館
- 関係機関 ジャパン・ハウス
- 訴求対象 文化芸術・企業関係者、日本研究者
- 開催規模 180名
- 概要・効果

ジャパン・ハウスの開館を前に、ジャパン・ハウスの概要を幅広い層に対し紹介することにより、今後の連携・パートナーシップを構築。



## 108 グレンデール市日本庭園・茶室修復計画(ロサンゼルス総領事館)

- 実施時期 2017年8月8日～11日(4日間)
- 実施場所 グレンデール市ブランド公園内日本庭園・茶室
- 関係機関 グレンデール市、フレンズ・オブ・ショーセイアン、国際交流基金、国土交通省
- 訴求対象 グレンデール市民、グレンデール市関係者

### ■概要・効果

同庭園は、平日市民に開放されているほか、週末は結婚式等のイベントに利用されており、市民の身近な存在。

8月には、日本から外務省、国土交通省、公益財団法人都市緑化機構、日本庭園専門家、国際交流基金からなる合同視察団を派遣。

グレンデール市長ほか、米側関係者と面談し、修復計画の大枠について合意(庭園は明年1月、茶室は春以降に修復予定。修復に前後して、同庭園を活用した文化行事を実施予定。)

